

(様式第 10)

東邦大森院 (総) 第 31-72 号
令和 1 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東邦大森院
理事長 炭山 嘉伸

東邦大学医療センター大森病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒143-8540 東京都大田区大森西5-21-16
氏 名	学校法人 東邦大学 理事長 炭山 嘉伸

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東邦大学医療センター大森病院

3 所在の場所

〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1	電話 (03) 3762-4151
---------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2消化器内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3循環器内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4腎臓内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5神経内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6血液内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7内分泌内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8代謝内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9感染症内科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
○10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
○11リウマチ科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ○1呼吸器外科 ○2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ○6心臓血管外科 7内分泌外科 ○8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 7産婦人科 ○8産科 ○9婦人科 ○10眼科 ○11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	○有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ○1小児歯科 ○2矯正歯科 ○3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科 2 脳神経内科 3 呼吸器科 4 消化器科 5 循環器科 6 形成外科 7 美容外科 8 性病科 9 肛門科 10 気管食道科 11 リハビリテーション科 12 病理診断科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	888床	934床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	262人	164.8人	426.8人	看 護 補 助 者	11人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	3人	3.2人	6.2人	理 学 療 法 士	14人	臨 床 検 査 技 師	97人
薬 剤 師	69人	0人	69人	作 業 療 法 士	5人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	289人	0人	289人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	73人	0人	73人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	722人	7.9人	729.9人	臨 床 工 学 士	20人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	6人
准 看 護 師	3人	0人	3人	栄 養 士	3人	そ の 他 の 技 術 員	54人
歯 科 衛 生 士	5人	0.1人	5.1人	歯 科 技 工 士	0人	eq ¥o¥ad (事 務 員,)	138人
管理栄養士	15人	0人	15人	診 療 放 射 線 技 師	61人	そ の 他 の 職 員	22人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	34人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	45人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	7人
小 児 科 専 門 医	29人	脳 神 経 外 科 専 門 医	9人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	12人
泌 尿 器 科 専 門 医	14人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	23人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	224人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (瓜田 純久) 任命年月日 平成 30年 7月 1日

セイフティーマネジャー 平成19年4月～平成22年1月

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	743.8人	4.1人	747.9人
1日当たり平均外来患者数	2,237.0人	71.3人	2,308.4人
1日当たり平均調剤数	1,141.2剤（入院：986.9剤，外来：154.4剤）		
必要医師数	193.610人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要（准）看護師数	444人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	246.69m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	9床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー	○有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	34.45 m ²	病床数	1床	
	[移動式の場合]	台数	7台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	32.80 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	615.32m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	216.56m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物検査装置・顕微鏡			
病理検査室	451.79m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 顕微鏡			
病理解剖室	93.84m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台			
研究室	74.93m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) クリーンベンチ、CO2インキベーター			
講義室	342.56m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	198人
図書室	72.21m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	1,300冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.8%	逆紹介率	66.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数		25,811人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		23,418人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,645人
	D: 初診の患者の数		35,162人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
梅田 勝	東京工科大学 医療保健学部 学部長 (医師)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・○無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 七郎	弁護士 (東京弁護士会)		法律に関する識見を有する者	有・○無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
岩本 裕	NHK チーフ・プロデューサー		医療メディアに関する識見を有する者	有・○無	2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
高松 研	東邦大学 学長 (医師)		医療に関する識見を有する者	○有・無	
渡邊 善則	東邦大学 医学部 学部長 (医師)		医療に関する識見を有する者	○有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	○有・無
委員の選定理由の公表の有無	○有・無
公表の方法	
ホームページ (http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/byoin/evaluation/audit.html)	

高度の医療の提供の実績
(平成30年度実績)

3 その他の高度の医療

医療技術名:ACTH 負荷副腎静脈採血法(ACTH-loaded AVS)	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要: 原発性アルドステロン症の疑診例に対し、選択的副腎静脈から採血し、アルドステロン濃度により限局する病変を検索する。ACTH 刺激後の副腎静脈血中アルドステロン/コルチゾール(A/C)比を左右で算出し、lateralized ratio = (高値側の副腎静脈 A/C 比) ÷ (低値側の副腎静脈 A/C 比) ≥ 2.6 場合、高値側の片側病変とし、手術によって患側副腎の摘出を準備する。		
医療技術名:各種内分泌負荷試験 外来	取扱い患者数	115人
当該医療技術の概要: ホルモンや関連因子の増加・不足を決定するために行う検査。生体を一時的に特定の環境に設定し、その時のホルモン分泌反応を評価。ホルモン産生の障害部位や治療薬における効果判定にも使用。		
医療技術名:各種内分泌負荷試験 入院	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: ホルモンや関連因子の増加・不足を決定するために行う検査。生体を一時的に特定の環境に設定し、その時のホルモン分泌反応を評価。ホルモン産生の障害部位や治療薬における効果判定にも使用。		
医療技術名:持続皮下インスリン注入療法 (CSII :continuous subcutaneous insulin infusion)	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 24時間を通じて超速効型インスリンを注入する携帯型の小型インスリン注入体外式ポンプ機器。携帯電話や携帯音楽プレイヤーほどの大きさで、皮下に留置された細いチューブとカニューレを通してインスリンを注入し、24時間にわたり糖尿病患者の血糖値を適正に治療。		
医療技術名:持続血糖測定 CGM(Continuous Glucose Monitoring)	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 皮下組織に専用のセンサを装着し、連続的に皮下のグルコース(ブドウ糖)濃度を記録する新しい検査方法。		
医療技術名:人工膵臓	取扱い患者数	42人
当該医療技術の概要: 6時間のブドウ糖とインスリンの点滴検査で、肝臓と筋肉のインスリン感受性を調べる検査。		
医療技術名:フラッシュ血糖モニターFGM(Flash Glucose Monitoring)	取扱い患者数	80人
当該医療技術の概要: 皮下組織に専用のセンサを装着して、連続的に皮下のグルコース(ブドウ糖)濃度を記録し、非接触型センサによって血糖を確認できる技術。		
医療技術名:実物大臓器立体モデルによる手術計画	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要:先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は、多くが複雑な形状を呈している。形状を実物大立体モデル(模型)により手術前に把握し、手術計画をたて、術後の形状をシミュレーションすることにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。		
医療技術名:ナビゲーションシステムによる頭蓋顎顔面骨の再建	取扱い患者数	40人
当該医療技術の概要:先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は多くが複雑な形状を呈している。術中に再建後の形状をシミュレーションし、修復位置の確認などを行うことにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。		
医療技術名:血管性疾患の治療	取扱い患者数	180人
当該医療技術の概要:赤アザ(母状血管種、単純性血管種)、毛細血管拡張性に対するダイレーザー(Vbeam)治療や、乳児血管種に対するBブロック(ヘマンジオールシロップ)内服治療を行っている。		
医療技術名:超音波カラードプラを用いた皮弁栄養血管の定量的血流解析による再建	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要:頭頸部、体幹、四肢など、様々な部位における悪性腫瘍切除後の組織再建において、用いる皮弁の血行形態、動態の解析に超音波カラードプラを用い、術前の適応検討や、術後評価を行っている。		
医療技術名:新生児先天性心疾患の内科的管理および外科的治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要:新生児期に発症する重症先天性心疾患においては、適切な時期に手術を行うことが可能となるように、より専門的な内科管理が必要である。新生児に対する外科治療では、手術の難易度が高いだけでなく、術中の麻酔も含め、幼児以降の小児患者よりも綿密な管理が必要となってくる。術後においても、新生児の未熟性のために回復が遅く、急激な悪化を示すことが多く、リスクを回避するために、専門医による管理が必須である。		
医療技術名:肺高血圧症における一酸化窒素療法	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要:高度の肺高血圧を伴う先天性疾患において、術後に肺高血圧クライゼを来すことがある。この発作は致死的な状態であり、一旦発症すると回復することが困難となる。術後、このクライゼ予防のため、血行動態をより安定化させる必要があり、一酸化窒素療法が重要な治療戦略の一つになっている。適切な投与量をモニタリングしながら、副作用に留意すべき治療であり、専門医による管理が必要である。		
医療技術名:小児先天性心疾患に対する心臓カテーテル検査	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要:小児の先天性心疾患では、体格が小さいことだけではなく、その解剖学的な複雑性から、カテーテル手技の難易度は極めて高い。アクセスする血管が細く、脆弱であるため、高度の技術を要する。また、検査中に呼吸状態や血行動態が不安定になるリスクが高いため、カテーテル術者だけでなく、看護師、技師を含めたチームでの管理が必要になってくる。		
医療技術名:小児先天性心疾患に対する心臓カテーテル治療	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要:動脈管開存症、肺動脈弁狭窄、肺動脈狭窄などに対する、経皮的コイル塞栓術や経皮的バルーン拡張術を行っている。これらのカテーテル治療では、乳幼児の開心術を回避することができ、先天性心疾患の術後に残存した病変に対しても、再手術を回避することができる。しかし、技術的に難易度が高く、適切な手技と治療デバイスの選択が必要であり、専門医によってのみ行うことが出来る。		
医療技術名:肺高血圧症に対するEpoprostenol持続静注療法	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要:小児期に発症した肺高血圧症に対して、Epoprostenol持続静注療法の使用経験は他の施設に比べて、当院では多い。100万人に1-2人程度の発症率であるが、専門施設としてより多くの症例の経験を積んでいる。本治療にあたり、埋没型カテーテルの挿入が必要であるが、血行動態が不安定な場合、術中に急変するリスクが高い。このため、麻酔科、外科とも綿密な治療計画を立てて、手術にあたっている。持続静注の投与量に関しても副作用に留意しながら、症例毎に適切な投与量を設定する必要がある。専門医による管理が必要である。		
医療技術名:小児難治性白血病に対する集学的治療	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 小児白血病を含む小児がん患者に対して多剤併用化学療法を行う。治療は極めて強力であり、骨髄抑制をはじめとして多岐にわたる有害事象が確実に発生するため、これらへの対応が重要である。治療には小児外科、放射線科、脳神経外科、病理部などの協力が不可欠であり、これらの診療科とのカンファレンスを密に行い、最適な治療を行う。一部の患者では自家造血細胞移植も併用する。		
医療技術名:先天性甲状腺機能低下症の診断と治療	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要:新生児マススクリーニングなどで発見された先天性甲状腺機能低下症の患者さんを対象としている。尿中ヨード測定で母体からのヨード過剰の有無、甲状腺超音波検査で形態異常、位置異常の有無を確認し、病態の把握を行っている。その後、成長発達に留意しながら、甲状腺ホルモン補充療法を行っている。		

医療技術名: 成長ホルモン治療	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 成長ホルモン治療の保険適応がある、成長ホルモン分泌不全、ターナー症候群、SGA性低身長症、軟骨異常症などの患者さんを対象にしている。必要に応じて、他のホルモン分泌不全の評価、成長ホルモン分泌刺激試験や、頭部MRI、合併する疾患の有無を確認した後、副作用などに留意して、成長ホルモン治療を行っている。		
医療技術名: 冠動脈ステント	取扱い患者数	394人
当該医療技術の概要: 現在冠動脈インターベンション(PCI)の中心的治療法であり、当施設では約90%において本治療法が選択されている。冠動脈内に筒状の金属を留置する方法であり数種類のステントが臨床使用されている。		
医療技術名: 血栓吸引療法	取扱い患者数	62人
当該医療技術の概要: 冠動脈の閉塞病変において血栓を機械的に吸引し、末梢血栓を防ぐ方法である。単純に血栓を吸引する方法とバルーンを拡張させてその末梢の血栓を吸引するdistal protection deviceに分けられる。後者は末梢血栓が問題となる変性静脈グラフト病変の待機治療においても極めて有効である。		
医療技術名: ロータブレータ	取扱い患者数	11人
当該医療技術の概要: 冠動脈病変を機械的に取り除くアテレクトミーに属する治療である。先端にダイヤモンドチップを散りばめたバーの高速回転(毎分15-20万回転)により病変を破碎し、末梢に洗い出す。透析患者などで高度石灰化病変では有効であり、学会が認定する施設基準に基づいて本治療法が実施されている。		
医療技術名: カテーテルアブレーション	取扱い患者数	283人
当該医療技術の概要: 経皮的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、体表に装着した対極板とのあいだで高周波通電を行い、頻拍の原因となる異常興奮発生部位、異常興奮回路・伝導路を選択的に焼灼する治療法である。発作性上室頻拍、心房粗動、心房細動、心室頻拍など頻脈性不整脈に対する根治目的で実施されている。		
医療技術名: 植込み型除細動器(ICD)	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要: 心室細動や心室頻拍などの心室性不整脈による心臓突然死の予防目的で実施される。経静脈的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、デバイス本体は前胸部の皮下に埋め込む。心肺蘇生経験例のみならず、心臓突然死の危険性があると判断された患者においても使用される。		
医療技術名: 心臓再同期療法(CRT)・除細動機能付き心臓再同期療法(CRT-D)	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 薬剤抵抗性の重症心不全患者に対して適応があり、心機能の改善目的で使用される。経静脈的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、デバイス本体は前胸部の皮下に埋め込む。同時に不整脈性の心臓突然死をきたす可能性がある患者では、除細動機能付きのデバイスが使用される。		
医療技術名: 腹腔鏡下肝切除(亜区域切除以上の系統的切除、外側区域切除を除く)	取扱い患者数	7人
当該医療技術の概要: 肝疾患に対する腹腔鏡下肝切除(亜区域切除以上の系統的切除、外側区域切除を除く)は厳格な施設基準の下、術前の前向き症例登録を行うことでの施行が許されている高難度肝胆膵手術(保険診療)である。		
医療技術名: 腹腔鏡下膵切除(リンパ節郭清を伴う遠位膵切除)	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要: 膵臓癌に対する腹腔鏡下膵切除(リンパ節郭清を伴う遠位膵切除)は厳格な施設基準の下、術前の前向き症例登録を行うことでの施行が許されている高難度肝胆膵手術(保険診療)である。		
医療技術名: オープン型ステントグラフト内挿術	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 弓部大動脈瘤や急性大動脈解離において広範囲弓部大動脈置換術が必要な場合に、反回神経麻痺などの合併症を回避し、また二期的に治療を可能にする新しい術式である。		
医療技術名: 胸部大動脈ステントグラフト内挿術	取扱い患者数	19人
当該医療技術の概要: 超高齢者、重度基礎疾患、開胸術の既往のため、従来の開胸、人工心肺使用による人工血管置換術ではリスクが高い症例に対し、本術式を行う。		
医療技術名: 腹部大動脈ステントグラフト内挿術	取扱い患者数	22人
当該医療技術の概要: 超高齢者、重度基礎疾患、開腹術の既往のため、従来の開腹による人工血管置換術ではリスクが高い症例に対し、本術式を行う。		
医療技術名: オフポンプ冠動脈バイパス術	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 超高齢者、低心機能、重度基礎疾患を有する虚血性心疾患症例に対し、人工心肺を用いず、心拍動下で冠動脈バイパス術を行う。		
医療技術名: 弁形成術	取扱い患者数	14人
当該医療技術の概要: 弁膜症に対し、自己弁を温存し弁機能を正常化する術式である。術後の抗凝固療法や抗血小板療法を必要とせず、また、人工弁関連合併症を回避することができ、患者の術後QOLを高く維持することが可能である。		
医療技術名: 経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱い患者数	7人
当該医療技術の概要: 超高齢者、重度基礎疾患、胸部大動脈高度石灰化を有するなど、人工心肺を用いた通常の開胸手術に耐えられない症例に対し、人工心肺を用いず鼠径部の動脈を経由し経カテーテル的に行う大動脈弁置換術。		
医療技術名: 複雑心奇形に対する低侵襲外科手術	取扱い患者数	44人
当該医療技術の概要: 重度心不全状態の複雑心奇形症例に対し、小切開および充填量が極めて少ない人工心肺装置を用いて生体侵襲を低減し、手術成績の向上を図っている。		
医療技術名: 新生児重症心疾患の内科的管理及び外科治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE1製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している。		
医療技術名: 顆粒球減少症に対するG-CSF療法	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 顆粒球減少症の児に対し、G-CSFを投与した		
医療技術名: 新生児重症心疾患の内科的管理及び外科治療	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE1製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している		
医療技術名: 新生児遷延性肺高血圧症における一酸化窒素吸入療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 新生児持続性肺高血圧症に対し、微量のNOガスを投与した		

医療技術名:肺サーファクタント補充療法	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 新生児呼吸窮迫症候群に対し、気管内人工肺サーファクタント補充療法を行った		
医療技術名:気管支肺異形成症・気胸予防に対する高頻度振動換気療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 気管支肺異形成症・気胸予防に対し高頻度振動換気療法を行った		
医療技術名:未熟児動脈管閉存症に対する薬物的閉鎖療法	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 未熟児動脈管閉存症に対し、心エコー検査で評価した後インドメタシン静注療法で閉鎖させた		
医療技術名:臍動脈カテーテルによる循環の管理	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 臍動脈にカテーテルを挿入し、動脈圧を常時モニターすることにより重症新生児の循環管理を行い予後を改善した		
医療技術名:新生児重症外科的疾患の治療並びに管理	取扱い患者数	18人
当該医療技術の概要: 先天的奇形に基づき、新生児の消化器、呼吸器、体壁などの重症疾患を手術的に救命し、術後の管理を行う		
医療技術名:未熟児貧血に対するエリスロポエチン投与	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 未熟児貧血に対し、エリスロポエチンを投与し、輸血の頻度を減少させた		
医療技術名:水頭症に対するリザーバ留置術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 出血後水頭症に対し、リザーバ留置による治療を行った		
医療技術名:中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)による高カロリー輸液	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)を挿入し、高カロリー輸液を実施することにより、低栄養状態を改善させ		
医療技術名:未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した		
医療技術名:重症新生児仮死例に対する脳低温療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 重症仮死例に早期より脳低温療法を行い予後の改善をはかる		
医療技術名:胎児(心臓)超音波検査	取扱い患者数	310人
当該医療技術の概要: 胎児心臓超音波検査などにより、正確な胎内診断に基づく出生後の管理につなげた		
医療技術名:低酸素吸入療法(窒素ガス)	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 肺高血流量疾患の術前管理として当該療法により、肺う血の進行をコントロールし、術前状態を最適化した。		
医療技術名:重症感染症に対するγグロブリン療法	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 重症感染症例に当該治療により予後の改善をはかる		
医療技術名:重症感染症や早発黄疸に対する交換輸血	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 重症の感染症や早発黄疸に対する交換輸血で生命予後の改善につなげた		
医療技術名:経胎盤的胎児不整脈治療	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 厚生省認定の当該技術により重症胎児不整脈(頻脈性及び徐脈性)を胎内で治療し、その予後改善につなげた		
医療技術名:aEEG(長時間脳波)による新生児けいれんの記録解析	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 重症新生児仮死や新生児けいれんに対して発作型や治療効果判定に応用した		
医療技術名:当該医療技術の概要:筋萎縮性側鎖硬化症患者に対するロボットハビリ(HAL)	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 2018年8月より、筋萎縮性側索硬化症患者に対してhybrid assisted limb (HAL)というロボットスーツを用いた治療をリハビリテーション科と共同で行っている。		
医療技術名:レボドパ・カルビドパ配合経腸用液の経胃瘻空腸投与	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: パーキンソン病患者に対して、レボドパ・カルビドパ水和物製剤を経胃瘻空腸投与することを目的とした、経鼻栄養・薬剤投与チューブ挿入術、薬剤投与用胃瘻造設術、およびチューブ交換時の経管栄養・薬剤投与用カテーテル交換法		
医療技術名:内視鏡視下椎間板切除術	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲手術をめざし、内視鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。		
医療技術名:脊椎固定術	取扱い患者数	150人
当該医療技術の概要: 脊椎の変形が不安定性に対して、ケージとスクリューロッドを用いて脊椎を固定し、術前症状の改善を図っている。		
医療技術名:顕微鏡下、椎間板ヘルニア摘出術	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲化をめざし、顕微鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。		
医療技術名:コンピュータナビゲーションシステムの使用	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 脊椎インストルメンテーション手術時に個々に最も適したスクリューインプラットの設置を行うため、コンピューター計測をもとにスクリュー刺入を正確に行うためにナビゲーションシステムを使用している。		
医療技術名:自己血回収、輸血	取扱い患者数	150人
当該医療技術の概要: 輸血をすることが予測される患者に対して、感染症の予防、輸血量削減を目的に手術中より自己血回収装置を使用している。人工関節置換術後のドレーン血も自己血回収装置を使用し回収しているが、有用な方法である。		
医療技術名:人工関節置換術	取扱い患者数	300人
当該医療技術の概要: 膝、股、肩、足、肘関節の変形性変化による疼痛、可動域制限などに対して、QOLの向上を目的として人工関節置換術を行い良好な成績を得ている。		
医療技術名:関節リウマチに対する生物学的製剤治療	取扱い患者数	180人
当該医療技術の概要: 関節リウマチの関節炎には炎症性サイトカイン(IL-1,IL-6,TNF-αなど)が大きくかかわっていることが知られている。近年、関節リウマチの治療法として、これらの炎症性サイトカインに対する生物学的製剤が臨床応用されている。従来抗リウマチ薬に抵抗性の関節リウマチ患者に対して生物学的製剤を用い治療している。		
医療技術名:悪性骨・軟部腫瘍広汎切除術	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 医療技術名:Lactulose-水素呼吸試験による小腸通過時間測定		
医療技術名:Lactulose-水素呼吸試験による小腸通過時間測定	取扱い患者数	20人

当該医療技術の概要: 小腸で吸収されない2種類Lactuloseが盲腸に到達すると、腸内細菌が発酵に利用し、水素ガスを発生する。水素ガスの上昇する時間から、盲腸到達時間が推定できる。	
医療技術名:13C-プロピオン酸呼吸気試験によるビタミンB12吸収検査	取扱患者数 6人
当該医療技術の概要: プロピオン酸代謝の補酵素として働くビタミンB12は、血中濃度が十分保たれていても、作用不十分な症例も存在する。本試験により病態を把握し治療へ結びつける。	
医療技術名:陰イオン交換樹脂コレステミドによる慢性下痢の治療	取扱患者数 75人
当該医療技術の概要: コレステミドは小腸内胆汁酸を吸着し、大腸への流入を減少させる。胆汁酸再吸収障害に伴う下痢に著効する。他院で治療できない難治性下痢の88%が改善した。	
医療技術名:腹腔鏡下膀胱全摘術	取扱患者数 10人
当該医療技術の概要: 保険適応にはなっていないが、まだまだ実施施設が全国に普及している術式ではない 平成30年度はロボット補助下腹腔鏡手術に移行する予定である	
医療技術名:ロボット補助下腎部分切除術	取扱患者数 18人
当該医療技術の概要: 保険適応になりダビンチ保有施設では普及しつつあるが、通常の腹腔鏡下腎部分切除術より難易度の高い症例が選択される傾向がある。	
医療技術名:加算的平均心電図(LP)	取扱患者数 97人
当該医療技術の概要: 心室細動、心室頻拍、発作性心房細動などの重症不整脈が出現する可能性を診断するために、心房、心室の遅延電位を計測する。	
医療技術名:超音波造影剤(ソナグイド/ルボビスト)を用いた超音波検査	取扱患者数 1431人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤(ソナグイド/ルボビスト)を用いた消化器系腫瘍の質的診断と腫瘍凝固療法等の治療後効果判定やびまん性肝疾患(肝炎・肝硬変)の進行度評価法の検討。	
医療技術名:超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA、RITA)での肝腫瘍治療	取扱患者数 46人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA、RITA)での経皮的肝腫瘍の治療。	
医療技術名:睡眠障害に対する終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱患者数 135人
当該医療技術の概要: 終夜約8時間の脳波を含むポリグラフ記録を行い、不眠、過眠などの睡眠障害および睡眠随伴性の診断を行う。	
医療技術名:術中脳脊髄機能モニタリングとしてABR,SSEP,MEPの誘発電位記録	取扱患者数 118人
当該医療技術の概要: ABR,SSEP,MEPの誘発電位記録を脳脊髄手術中に行い術後の神経欠落症状の出現を防ぐ。	
医療技術名:経食道心臓超音波検査(テポテ中含む)	取扱患者数 472人
当該医療技術の概要: 先天性疾患、弁膜症、人工弁置換術後、左心耳内血栓など通常の経胸壁エコー検査では、詳細な情報が得られない場合、経食道的アプローチは有用となる。	
医療技術名:睡眠潜時反復測定法(MSLT)	取扱患者数 7人
当該医療技術の概要: 客観的な日中の過度の眠気測定、特にナルコレプシーの補助診断のため、脳波記録を2時間ごとに繰り返し行い、眠りにつくまでの時間とそれに伴う臨床症状を記録する。	
医療技術名:光トポグラフィー	取扱患者数 147人
当該医療技術の概要: うつ症状における原因疾患の鑑別、脳神経外科術前における言語優位半球の同定、てんかん焦点の推定に有用。	
医療技術名:関節リウマチ及び膠原病に対する免疫抑制薬の適正使用	取扱患者数 600人
当該医療技術の概要: 種々の免疫抑制薬が関節リウマチ及び全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対して使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った。	
医療技術名:関節リウマチ及び膠原病諸疾患に対する生物学的製剤の適正使用	取扱患者数 320人
当該医療技術の概要: TNF阻害薬などの生物学的製剤が、関節リウマチや、パーチェット病・強直性脊椎炎・血管炎症候群などの膠原病諸疾患に使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った。	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

実施している指定難病についての診療及び1年間当たりの取り扱い患者数

番号	病名	件数
1	球脊髄性筋萎縮症	5
2	筋萎縮性側索硬化症	40
3	脊髄性筋萎縮症	1
4	原発性側索硬化症	2
5	進行性核上性麻痺	10
6	パーキンソン病	125
7	大脳皮質基底核変性症	4
8	ハンチントン病	1
9	神経有棘赤血球症	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3
11	重症筋無力症	62
12	先天性筋無力症候群	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	47
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	5
15	封入体筋炎	2
16	クロウ・深瀬症候群	
17	多系統萎縮症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	18
19	ライソゾーム病	
20	副腎白質ジストロフィー	
21	ミトコンドリア病	1
22	もやもや病	16
23	プリオン病	
24	亜急性硬化性全脳炎	
25	進行性多巣性白質脳症	
26	HTLV-1関連脊髄炎	
27	特発性基底核石灰化症	
28	全身性アミロイドーシス	3
29	ウルリッヒ病	
30	遠位型ミオパチー	1
31	ベスレムミオパチー	
32	自己食空胞性ミオパチー	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	
34	神経線維腫症	4
35	天疱瘡	10
36	表皮水疱症	17
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2
39	中毒性表皮壊死症	
40	高安動脈炎	17
41	巨細胞性動脈炎	4
42	結節性多発動脈炎	12
43	顕微鏡的多発血管炎	34
44	多発血管炎性肉芽腫症	6
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19
46	悪性関節リウマチ	16
47	バージャー病	3
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	278
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	87
51	全身性強皮症	96
52	混合性結合組織病	32
53	シェーグレン症候群	43
54	成人スチル病	29
55	再発性多発軟骨炎	3

番号	病名	件数
56	ベーチェット病	58
57	特発性拡張型心筋症	32
58	肥大型心筋症	7
59	拘束型心筋症	1
60	再生不良性貧血	27
61	自己免疫性溶血性貧血	4
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
63	特発性血小板減少性紫斑病	51
64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
65	原発性免疫不全症候群	7
66	IgA腎症	18
67	多発性嚢胞腎	24
68	黄色靱帯骨化症	11
69	後縦靱帯骨化症	48
70	広範脊柱管狭窄症	4
71	特発性大腿骨頭壊死症	37
72	下垂体性ADH分泌異常症	10
73	下垂体性TSH分泌亢進症	
74	下垂体性PRL分泌亢進症	1
75	クッシング病	1
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	8
78	下垂体前葉機能低下症	30
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
80	甲状腺ホルモン不応症	
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
82	先天性副腎低形成症	
83	アジソン病	1
84	サルコイドーシス	37
85	特発性間質性肺炎	106
86	肺動脈性肺高血圧症	48
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
89	リンパ管筋腫症	1
90	網膜色素変性症	22
91	バッド・キアリ症候群	
92	特発性門脈圧亢進症	4
93	原発性胆汁性肝硬変	43
94	原発性硬化性胆管炎	2
95	自己免疫性肝炎	31
96	クローン病	74
97	潰瘍性大腸炎	202
98	好酸球性消化管疾患	2
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
101	腸管神経節細胞減少症	
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
103	CFC症候群	
104	コステロ症候群	
105	チャージ症候群	
106	クリオピリン関連周期熱症候群	
107	若年性特発性関節炎	
108	TNF受容体関連周期性症候群	
109	非典型性溶血性尿毒毒症症候群	
110	ブラウ症候群	

111	先天性ミオパチー	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	
113	筋ジストロフィー	10
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	

166	弾性線維性仮性黄色腫	
167	マルファン症候群	2
168	エーラス・ダンロス症候群	
169	メンケス病	

115	遺伝性周期性四肢麻痺	
116	アトピー性脊髄炎	
117	脊髄空洞症	
118	脊髄髄膜瘤	
119	アイザックス症候群	
120	遺伝性ジストニア	
121	神経フェリチン症	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	
126	ペリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	
130	先天性無痛無汗症	
131	アレキサンダー病	
132	先天性核上性球麻痺	
133	メビウス症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	
135	アイカルディ症候群	
136	片側巨脳症	
137	限局性皮質異形成	
138	神経細胞移動異常症	
139	先天性大脳白質形成不全症	
140	ドラベ症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	
142	ミオクロニー欠神てんかん	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	
144	レノックス・ガストー症候群	
145	ウエスト症候群	
146	大田原症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	
150	環状20番染色体体症候群	
151	ラスマッセン脳炎	
152	PCDH19関連症候群	1
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	
155	ランドウ・クレフナー症候群	
156	レット症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	
158	結節性硬化症	2
159	色素性乾皮症	
160	先天性魚鱗癬	
161	家族性良性慢性天疱瘡	
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
163	特発性後天性全身性無汗症	
164	眼皮膚白皮症	
165	肥厚性皮膚骨膜炎	

221	抗糸球体基底膜腎炎	
222	一次性ネフローゼ症候群	50
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3
224	紫斑病性腎炎	4
225	先天性腎性尿崩症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
227	オスラー病	
228	閉塞性細気管支炎	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
230	肺胞低換気症候群	
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	1
232	カーニー複合	
233	ウォルフラム症候群	

170	オキシピタル・ホーン症候群	
171	ウィルソン病	7
172	低ホスファターゼ症	
173	VATER症候群	1
174	那須・ハコラ病	
175	ウィーバー症候群	
176	コフィン・ローリー症候群	
177	ジュベール症候群関連疾患	
178	モワット・ウィルソン症候群	
179	ウィリアムズ症候群	1
180	ATR-X症候群	
181	クルーゾン症候群	
182	アペール症候群	
183	ファイファー症候群	
184	アントレー・ピクスラー症候群	
185	コフィン・シリス症候群	
186	ロスムンド・トムソン症候群	
187	歌舞伎症候群	
188	多脾症候群	
189	無脾症候群	
190	鰓耳腎症候群	
191	ウェルナー症候群	
192	コケイン症候群	
193	プラダー・ウィリ症候群	
194	ソトス症候群	
195	ヌーナン症候群	
196	ヤング・シンプソン症候群	
197	1p36欠失症候群	
198	4p欠失症候群	
199	5p欠失症候群	
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
201	アンジェルマン症候群	
202	スミス・マガニス症候群	
203	22q11.2欠失症候群	
204	エマヌエル症候群	
205	脆弱X症候群関連疾患	
206	脆弱X症候群	
207	総動脈幹遺残症	
208	修正大血管転位症	2
209	完全大血管転位症	1
210	単心室症	1
211	左心低形成症候群	
212	三尖弁閉鎖症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	
215	ファロー四徴症	
216	両大血管右室起始症	2
217	エプスタイン病	
218	アルポート症候群	1
219	ギャロウェイ・モワット症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	2

273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
274	骨形成不全症	
275	タナトフォリック骨異形成症	
276	軟骨無形成症	
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
282	先天性赤血球形形成異常性貧血	
283	後天性赤芽球癆	
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
285	ファンコニ貧血	

234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	
235	副甲状腺機能低下症	
236	偽性副甲状腺機能低下症	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	
240	フェニルケトン尿症	
241	高チロシン血症1型	
242	高チロシン血症2型	
243	高チロシン血症3型	
244	メープルシロップ尿症	
245	プロピオン酸血症	
246	メチルマロン酸血症	
247	イソ吉草酸血症	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	
249	グルタル酸血症1型	
250	グルタル酸血症2型	
251	尿素サイクル異常症	
252	リジン尿性蛋白不耐症	
253	先天性葉酸吸収不全	
254	ポルフィリン症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	
256	筋型糖原病	
257	肝型糖原病	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
260	シトステロール血症	
261	タンジール病	
262	原発性高カイロミクロン血症	
263	脳髄黄色腫症	1
264	無βリポタンパク血症	
265	脂肪萎縮症	1
266	家族性地中海熱	
267	高IgD症候群	
268	中條・西村症候群	
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
270	慢性再発性多発性骨髓炎	
271	強直性脊椎炎	19
272	進行性骨化性線維異形成症	

286	遺伝性鉄芽球性貧血	
287	エプスタイン症候群	
288	自己免疫性出血病XIII	
289	クロンカイト・カナダ症候群	
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	
292	総排泄腔外反症	
293	総排泄腔遺残	
294	先天性横隔膜ヘルニア	
295	乳幼児肝巨大血管腫	
296	胆道閉鎖症	
297	アラジール症候群	
298	遺伝性睪炎	1
299	嚢胞性線維症	
300	IgG4関連疾患	5
301	黄斑ジストロフィー	
302	レーベル遺伝性視神経症	
303	アッシャー症候群	
304	若年発症型両側性感音難聴	
305	遅発性内リンパ水腫	
306	好酸球性副鼻腔炎	23
307	カナバン病	
308	進行性白質脳症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	
310	先天異常症候群	
311	先天性三尖弁狭窄症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	
313	先天性肺静脈狭窄症	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	
316	カルニチン回路異常症	
317	三頭酵素欠損症	
318	シトリン欠損症	
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
321	非ケト-シス型高グリシン血症	
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
324	メチルグルタコン酸尿症	

325	遺伝性自己炎症疾患	
326	大理石骨病	
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
328	前眼部形成異常	
329	無虹彩症	
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
331	特発性多中心性キャッスルマン病	
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ○2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC,呼吸器カンファレンス、消化器がんサワーボード:計30回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 31例 / 剖検率 5.49%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

研究費補助に関する調査について(2018年度実績)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:千円)	補助元又委託元
1	小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供に向けた研究	与田仁志	新生児科	100	厚生労働行政推進調査事業費
2	新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの実用化に向けた臨床研究	与田仁志	新生児科	500	日本医療研究開発機構 平成30年度「成育疾患克服等総合研究事業—BIRTHDAY」
3	低出生体重児の経腸栄養確立に対するピフィズス菌投与の有効性確認試験	与田仁志、荒井博子	新生児科	1,600	明治(株)
4	乳児における母乳型脂質摂取の評価	与田仁志	新生児科	2,000	糧食研究会
5	糖尿病患者の生活の質を高める睡眠介入法の検討	弘世貴久	糖尿病・代謝・内分泌センター	900	補 日本学術振興会
6	微小音響圧による皮下組織3次元マッピング	内野泰	糖尿病・代謝・内分泌センター	900	補 日本学術振興会
7	脂肪との共存を実現する糖尿病抑制策の探求	熊代尚記	糖尿病・代謝・内分泌センター	5,300	補 日本学術振興会
8	睡眠障害による肝脂肪蓄積を標的としたインスリン抵抗性の病態解明	嶋山文華	糖尿病・代謝・内分泌センター	1,300	補 日本学術振興会
9	眼底循環検査を用いた動脈硬化の把握	柴友明	眼科	1,300	文科省科研費
10	未熟児網膜症に対する新しい非侵襲的眼血流測定	松本直	眼科	1,300	文科省科研費
11	骨髄間葉系前駆細胞を用いた次世代型血管新生療法の基礎的解析	大西清(責任者)	形成外科	1,000	補 文部省科学研究費
12	bFGF誘導性の瘢痕抑制microRNAの探索と標的核酸治療法開発の基礎研究	大西清(分担)	形成外科	200	補 文部省科学研究費
13	Ex vivo増幅性血管新生Fibrocyteを用いた新規血管新生療法の開発	中道美保(責任者)	形成外科	1,250	補 文部省科学研究費
14	好酸球性副鼻腔炎の発症因子と増悪因子の解明	和田弘太	耳鼻咽喉科	1,430	日本学術振興会 基盤研究◎
15	甲状軟骨形成術I型専用インプラントの開発—より高い機能改善効果を得るために—	松島康二	耳鼻咽喉科	390	日本学術振興会 若手研究
16	バーチャル心臓とベクトル心電図の4次元構成的手法による不整脈の発生日部位同定	代表:中沢一雄 分担:池田隆徳	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 循環器内科	100	補 平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))

研究費補助に関する調査について(2018年度実績)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:千円)	補助元又委託元
17	3次元房室結節モデルによる心拍制御機構解明と心房細動治療戦略のための医工連携研究	分担:池田 隆徳 代表:稲田 慎	循環器内科 姫路獨協大学医療保健学部	100	補 平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))
18	カテーテル・アブレーション患者のQOL向上を目指した援助モデルの開発	分担:藤野 紀之 代表:山田 緑	循環器内科 東邦大学 看護学部	300	補 平成29年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))
19	胆汁酸取り込みによる白血病細胞の悪性度評価と胆汁酸トランスポーター阻害薬による新たな	羽賀洋一 松岡正樹 高橋浩之 小原明	小児科	500	東邦大学医学部プロジェクト研究
20	タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開	島田英昭	消化器外科	650	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 次世代がん医療創生研究事業
21	侵襲性酵母感染症の病原性解明と疫学・診断法制御法の研究	澁谷和俊	病理診断科	1,800	委 国立研究開発法人日本医療研
22	真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立に関する研究	澁谷和俊	病理診断科	600	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
23	難診断深在性真菌症の早期診断法の開発	澁谷和俊	病理診断科	100	補 文部科学省
24	自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成	分担:南木敏宏 代表:高橋 啓	膠原病科 大橋・病理	2,000	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
25	上皮バリア機構の不全により生じる疾患の克服を目指した事業	分担:南木敏宏 代表:中野裕康	膠原病科 生化学	1,000	私立大学研究ブランディング事業
26	関節リウマチにおける単球系細胞に対するフラクタルカインの関与の解明	代表:南木敏宏	膠原病科	1,560	科学研究費補助金(基盤研究C)
27	難治性血管炎に関する調査研究	分担:南木敏宏 代表:針谷正祥	膠原病科 東京女子医科大学	60	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))
28	酸化ストレス性細胞死抑制因子を指標とした神経変性疾患のバイオマーカーの同定	狩野 修	脳神経内科	1,170	文科省科研費

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。
4. 記入用紙が足りない場合は、この用紙をコピーしてご使用下さい。

(様式第3)

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別
1	Yuko Hamasaki, Tetuso Yamaguchi, Yusuke Takahashi, 他	医学部 医学科 心理学研究室, 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Change in the quality of life of caregivers of pediatric department patients undergoing kidney transplantation : a single-center prospective study	Clinical and Experimental Nephrology				24日		201810	Review
2	Kurosawa T, Miyoshi S, Yamazaki S, 他	医学部 医学科 生化学講座/病態生化学分野, 医学部 医学科 病理学講座, 医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森), 医学部 医学科 生化学講座/生化学分野	A murine model of acute lung injury identifies growth factors to promote tissue repair and their biomarkers.	Genes to Cells		24		112	125	201811	Review
3	Chiba K†, Nakamura Y†, Cao X†, 他	医学部 医学科 薬理学講座, 薬学部 医療薬学教育センター/薬物治療学研究室, 医学部 医学科 東洋医学研究室(大森)	Comparison of effects of phosphodiesterase inhibitors, a Rho-kinase inhibitor, Ca ²⁺ -channel blockers and a K ⁺ -channel opener on isolated human internal mammary arteries.	Toho Journal of Medicine	21891990	5	1	28	32	201903	Review
4	Shigeyasu C, Yamada M, Aoki K†, 他	医学部 医学科 微生物・感染症学講座, 医学部 医学科 眼科学講座(大森)	Metagenomic analysis for detecting Fusarium solani in a case of fungal keratitis.	Journal of infection and chemotherapy	1341-321X	24	8	664	668	201808	Review
5	Takemoto I†, Kawagoe N†, Kijima S†, 他	医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	13C-glucose breath tests: a non-invasive method for detecting early clinical manifestations of exogenous glucose metabolism in type 2 diabetic patients.	Acta Diabetologica 2018				10.1007/s00592-018-1276-y		201812	Review
6	Ishii T†, Sasaki Y†, Maeda T†, 他	医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	Clinical differentiation of infectious mononucleosis that is caused by Epstein-Barr virus or cytomegalovirus: A single-center case-control study in Japan	Journal of Infection and Chemotherapy		25	2019	431	436	201902	Original Article
7	Furuya K†, Nakajima H†, Sasaki Y†, 他	医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	Anisakiasis: The risks of seafood consumption.	Nigerian Jarnal of Clinical Practice		21	11	1492	1494	201811	Review
8	Sasaki Y†, Nagai Y†, Mikami T†, 他	医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森), 医学部 医学科 病理学講座, 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Anti-phospholipase A2 receptor antibody positive hepatitis B virus-associated membranous nephropathy remitted with entecavir after relapse with lamivudine.	Journal of Nephropathology.	doi: 10.15171/jnp.2018.22	7	2	93	97	201804	Review
9	Kido H†, Mizumura S†, Funahashi K†, 他	医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森), 医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 放射線医学講座(大森), 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Metabolic Tumor Volume and Total Lesion Glycolysis in PET/CT are Related with the Clinicopathological T Stage of Colorectal Cancer and Predict its Prognosis	Toho Journal of Medicine		4	4	132	140	201812	Original Article
10	Yasushi Matsukiyo, Hidenari Nagai, Teppei Matsui, 他	医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森)	Host Immunological Effects of Partial Splenic Embolization in Patients with Liver Cirrhosis.	Journal of Immunology Research	2314-8861	15		2018: 17463-91		201807	Review
11	Shunsuke Kobayashi, Masayoshi Yamada, Hiroyuki Takamaru, 他	医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森)	Diagnostic yield of the Japan NBI Expert Team (JNET) classification for endoscopic diagnosis of superficial colorectal neoplasms in a large-scale clinical practice database	United European Gastroenterology Journal				DOI: 10.1177/205064019845987		201903	Review
12	Yoshinori Kikuchi, Massaki Ito, Tetsuo Nemoto, 他	医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森), 医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 臨床腫瘍学講座	Thymidine Phosphorylase Expression in Gastric Cancer Tissues is Associated with Thrombocytosis but not with Serum Thymidine Phosphorylase Concentration	Toho Journal of Medicine		4	2	66	73	201806	Original Article
13	Kikuchi Y†, Ito M†, Nemoto T†, 他	医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森), 医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 臨床腫瘍学講座, 医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森)	Thymidine Phosphorylase Expression in Gastric Cancer Tissues is Associated with Thrombocytosis but not with Serum Thymidine Phosphorylase Concentration.	Toho Journal of Medicine	21891990	4	2	66	73	201806	Original Article

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
14	Kubota Y, Tay WT, Asai K, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	ASIA-HF Study investigators. Chronic obstructive pulmonary disease and β -blocker treatment in Asian patients with heart failure.	ESC Heart Failure		5		297	305	201804	Review
15	Amano H†, Noike R†, Saito D†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Plaque characteristics and slow flow during percutaneous coronary intervention of irregular protrusion by optical coherence tomography.	Heart and Vessels				doi: 10.10 07/s0 0380- 018- 01335 -4		201901	Review
16	Saito D†, Nakanishi R†, Watanabe I†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Combined assessment of left ventricular end-diastolic pressure and ejection fraction by left ventriculography predicts long-term outcomes of patients with ST-segment elevation myocardial infarction	Heart and Vessels	09108327	33	5	453	461	201805	Review
17	Kiuchi S†, Hisatake S†, Kabuki T†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	The Relationship between the Time until Commencement of Tolvaptan and the Length of Hospital Stay in Heart Failure Patients	Heart and Vessels		33	4	367	373	201804	Review
18	Osawa K, Nakanishi R†, Miyoshi T, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Correlation of Arterial Stiffness With Left Atrial Volume Index and Left Ventricular Mass Index in Young Adults: Evaluation by Coronary Computed Tomography Angiography	Heart, lung & circulation	14439506/ 14442892			*		201804	Review
19	Kiuchi S†, Ikeda T†	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Hemodynamic and Hormonal Effects of Tolvaptan for Heart Failure.	Internal Medicine				doi: 10.21 69/in ternal medic ine		201809	Review
20	Watanabe I†, Tatebe J†, Fujii T†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Prognostic significance of serum indoxyl sulfate and albumin for patients with cardiovascular disease.	International Heart Journal		60		129	135	201901	Review
21	Suzuki T†, Fujino T†, Shinohara M†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Right Ventricular Septal Pacing Using a Thin Lumenless Pacing Lead and Delivery System with a Deflectable Catheter.	International Heart Journal		59		1253	1260	201811	Review
22	Watanabe I†, Tatebe J†, Fujii T†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Prognostic Utility of Indoxyl Sulfate for Patients with Acute Coronary Syndrome.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis		26		64	71	201901	Review
23	Shinohara M†, Fujino T†, Yao S†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Assessment of the bleeding risk of anticoagulant treatment in non-severe frail octogenarians with atrial fibrillation.	Journal of Cardiology		73		7	13	201901	Review
24	Hashimoto H†, Nakanishi R†, Mizumura S†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Prognostic values of 123I-MIBG myocardial scintigraphy and heart rate variability in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Journal of Nuclear Cardiology				doi: 10.10 07/s1 2350- 018- 01494 -x		201811	Review
25	Tabako S†, Harada M†, Sugiyama K†, 他	医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森), 医学部 医学科 臨床生理機能学 研究室(大森)(~H31.3)	Association of left ventricular myocardial dysfunction with diabetic polyneuropathy.	Journal of Medical Ultrasonics		46	1	69	79	201901	Review
26	Kazuya Koyama†, Hisatsugu Goto, Shun Morizumi, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	The Tyrosine Kinase Inhibitor TAS-115 Attenuates Bleomycin-Induced Lung Fibrosis in Mice	Am J Respir Cell Mol Biol.		-	-	-	-	201812	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者-共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
27	Keishi Sugino†, Takayuki Kabuki†, Kazutoshi Shibuya†, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Systemic scleroderma-related interstitial pneumonia associated with borderline pulmonary hypertension.	BML Case Rep		-	-	bcr- 2017	22175 5	201805	Review
28	Isshiki T†, Isobe K†, Tochigi N, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Successful Use of Pembrolizumab to Treat Refractory Thymic Carcinoma with High PD-L1 Expression	Case Rep Oncol		11	3	688	692	201810	Review
29	Kunihiro Yamagata, Joichi Usui, Michio Nagata, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Histopathological classification of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis in a nationwide Japanese prospective 2-year follow-up cohort study	Clinical and Experimental Nephrology		-	-	-	-	201810	Review
30	Hisayo Matsuyama, Shion Miyoshi, Keishi Sugino†, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Fatal Invasive Pulmonary Aspergillosis Associated with Nonspecific Interstitial Pneumonia: An Autopsy Case Report.	Intern Med			57	3619	3624	201812	Review
31	Urabe N, Sakamoto S, Sano G, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Characteristics of patients with bronchoscopy-diagnosed pulmonary Mycobacterium avium complex infection.	Journal of Infection and Chemotherapy		24	10	822	827	201810	Review
32	Kazutoshi Isobe†, Kyohei Kaburaki†, Hiroshi Kobayashi†, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	New risk scoring system for predicting acute exacerbation of interstitial pneumonia after chemotherapy for lung cancer associated with interstitial pneumonia.	Lung Cancer			125	253	257	201811	Review
33	Kenji Nagasaka, Masayoshi Harigai, Noboru Hagino, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Systematic review and meta-analysis for 2017 clinical practice guidelines of the Japan research committee of the ministry of health, labour, and welfare for intractable vasculitis for the management of ANCA-associated vasculitis.	Mod Rheumatol.		29	1	119	129	201901	Review
34	Masayoshi Harigai, Kenji Nagasaka, Koichi Amano, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	2017 Clinical practice guidelines of the Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis for the management of ANCA-associated vasculitis	Modern Rheumatology		29	1	20	30	201901	Review
35	Hiroshige Shimizu†, Susumu Sakamoto†, Takuma Isshiki†, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Association of serum high-mobility group box protein 1 level with outcomes of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis and fibrosing nonspecific interstitial pneumonia.	PLoS ONE		13	5	e0196 558	-	201805	Review
36	Shion Miyoshi, Kazutoshi Isobe†, Hiroshige Shimizu†, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	The Utility of Virtual Bronchoscopy Using a Computed Tomography Workstation for Conducting Conventional Bronchoscopy: A Retrospective Analysis of Clinical Practice.	Respiration				10.11 59	00049 2074	201808	Review
37	Sakae Homma†, Masashi Bando, Arata Azuma, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森)	Japanese guideline for the treatment of idiopathic pulmonary fibrosis.	Respiratory investigation		-	56	268	291	201807	Review
38	Kazutoshi Isobe†, Atsushi Kakimoto, Tetuo Mikami, 他	医学部 医学科 内科学講座 呼吸器内科学分野(大森), 医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	PD-L1 mRNA Expression in EGFR-mutant Lung Adenocarcinoma.	Oncology Reports		40		331	338	201807	Review
39	Yoshikawa F†, Kumashiro N†*, Shigiyama F†, 他	医学部 医学科 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野 (大森)	Efficacy of intermittent empagliflozin supplementation on dietary self-management and glycemic control in patients with poorly controlled type 2 diabetes: A 24-Week randomized controlled trial.	Diabetes, Obesity and Metabolism		21	2	303	311	201902	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別
40	Kanazawa K†, Uchino H†*, Shigiyama F†, 他	医学部 医学科 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野(大森)	Sustained fasting glucose oxidation and postprandial lipid oxidation associated with reduced insulin dose in type 2 diabetes with SGLT2 inhibitor: a randomized, open-label prospective study.	Journal of Diabetes Investigation				doi: 10.1111/jdi.12994		201812	Review
41	Nagayama H, Kano O†, Murakami H, 他	医学部 医学科 内科学講座 神経内科学分野(大森)	Effect of istradefylline on mood disorders in Parkinson's disease.	Journal of the neurological sciences		396		78	83	201901	Review
42	Tohnaï G, Nakamura R, Sone J, 他	医学部 医学科 内科学講座 神経内科学分野(大森)	Frequency and characteristics of the TBK1 gene variants in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis.	Neurobiology of Aging		64		158		201804	Review
43	Ikeda K†, Kyuzen M†, Morioka H†, 他	医学部 医学科 内科学講座 神経内科学分野(大森), 医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	Single or add-on therapy of levetiracetam prevents migraine attacks in non-responders to usual anti-migraine medications: clinical profile of excellent levetiracetam-responders.	Headache	00178748/ 15264610	58	suppl S2	118		201805	Review
44	Ikeda K†, Aoyagi J, Hanashiro S†, 他	医学部 医学科 内科学講座 神経内科学分野(大森), 医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	Preventive treatment with lomerizine increases cerebral blood flows during the interictal phase of migraine.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	10523057	27		998	1002	201804	Review
45	Ikeda K†, Yanagihashi M†, Miura K†, 他	医学部 医学科 内科学講座 神経内科学分野(大森), 医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森)	Zonisamide cotreatment delays striatal dopamine transporter reduction in Parkinson disease	Journal of the Neurological Sciences	0022510X	391		5	9	201808	Review
46	Mai Kawazoe, Kaichi Kaneko, Kotaro Shikano, 他	医学部 医学科 内科学講座 膠原病学分野(大森)	Glucocorticoid therapy causes contradictory changes of serum Wnt signaling-related molecules in systemic autoimmune diseases.	Clin. Rheumatol		37	8	2169	2178	201804	Review
47	Keiko Kondo, Sei Muraoka, Toshihiro Nanki, 他	医学部 医学科 内科学講座 膠原病学分野(大森)	Successful treatment of IgA vasculitis complicated with bowel perforation and crescentic glomerulonephritis by glucocorticoid, cyclosporine and factor XIII replacement.	Intern Med.		57	20	3035	3040	201806	Review
48	Yoshiya Tanaka, Tsutomu Takeuchi, Hisanori Umehara, 他	医学部 医学科 内科学講座 膠原病学分野(大森)	Safety, pharmacokinetics, and efficacy of E6011, an anti-fractalkine monoclonal antibody, in a first-in-patient phase 1/2 study on rheumatoid arthritis.	Mod. Rheumatol		28	1	58	65	201804	Review
49	Wataru Hirose, Masayoshi Harigai, Takashi Uchiyama, 他	医学部 医学科 内科学講座 膠原病学分野(大森)	Low BMI and lymphocytopenia associate with Mycobacterium avium complex pulmonary disease in patients with rheumatoid arthritis.	Mod. Rheumatol. (in press).		-		-		201804	Review
50	Shotaro Masuoka, Natsuko Kusunoki, Ryo Takamatsu, 他	医学部 医学科 内科学講座 膠原病学分野(大森)	Epstein-Barr virus infection and variants of Epstein-Barr nuclear antigen-1 in synovial tissues of rheumatoid arthritis	PLoS One		13	12	e0208957		201812	Review
51	Kaneko T*†, Funahashi K†, Ushigome M†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森)	Incidence of and risk factors for incisional hernia after closure of temporary ileostomy for colorectal malignancy	Hernia : the journal of hernias and abdominal wall surgery	12654906/ 12489204	10.1007/s10029-018-1855-4		1	6	201811	Review
52	Saito F†, Sumazaki M†, Osaku T†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森)	Parathyroidectomy for Tertiary Hyperparathyroidism: A Single-Center Experience.	Toho Journal of Medicine	21891990	4	4	116	122	201812	Original Article

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別
53	Suzuki Takashi†, Yajima S†, Ishioka N†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床支援室, 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Prognostic significance of high serum p53 antibody titers in patients with esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus	16129059	15	4	294	300	201810	Original Article
54	Zhong B, Shingyoji M, Hanazono M, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	A p53-stabilizing agent, CP-31398, induces p21 expression with increased G2/M phase through the YY1 transcription factor in esophageal carcinoma defective of the p53 pathway.	American Journal of Cancer Research	21566976	9	1	79	93	201901	Review
55	Ito M†, Oshima Y†, Yajima S†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Diagnostic impact of high serum midkine level in patients with gastric cancer.	Annals of Gastroenterological Surgery	24750328	3	2	195	201	201903	Original Article
56	Shimada H†	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	p53 molecular approach to diagnosis and treatment of esophageal squamous cell carcinoma.	Annals of Gastroenterological Surgery	24750328	2	4	266	273	201806	Original Article
57	Shiratori F†, Ito M†, Yajima S†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	The effectiveness of serum midkine in detecting esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus	16129059			Online first		201902	Original Article
58	Ushigome M†, Nabeya Y, Soda H, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Multi-panel assay of serum autoantibodies in colorectal cancer.	International Journal of Clinical Oncology	13419625	23	5	917	923	201810	Original Article
59	Chai K, Ning X, Nguyễn TTT, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Heat shock protein 90 inhibitors augment endogenous wild-type p53 expression but down-regulate the adenovirally-induced expression by inhibiting a proteasome activity.	Oncotarget	19492553	9	40	26130	26143	201805	Review
60	Kobayashi S, Hiwasa T†, Arasawa T, Kagaya A, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Identification of specific and common diagnostic antibody markers for gastrointestinal cancers by SEREX screening using testis cDNA phage library.	Oncotarget	19492553	9	26	18559	18569	201804	Review
61	Oshima Y†, Nanami T†, Suzuki Takashi†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Impact of Immunological and Biochemical Parameters of Intake of Agaricus Blazei Murill (ABM) on Patients after Esophageal or Gastric Cancer Surgery.	Toho Journal of Medicine	21891990	4	3	90	94	201809	Original Article
62	Hamada K†, Takagi S, Kuboshima H, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座	Cloning of carrier cells infected with oncolytic adenovirus driven by midkine promoter and biosafety studies.	The journal of gene medicine	1099498X/ 15212254	13		e3064		201812	Review
63	Ito M†, Oshima Y†, Yajima S†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座, 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Is high serum programmed death ligand 1 level a risk factor for poor survival in patients with gastric cancer?	Annals of Gastroenterological Surgery	24750328	2	4	313	318	201807	Original Article
64	Kochi R†, Yajima S†, Nanami T†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座, 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Five-year postsurgical monitoring of serum p53 antibody for locally advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Clinical Journal of Gastroenterology	18657257/ 18657265	11	4	278	281	201808	Original Article
65	Isozaki Y, Yasuda S, Akutsu Y, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部医学科臨床腫瘍学講座, 医学部 医学科 外科学講座(佐倉)	Salvage Carbon-ion Radiotherapy for Isolated Lymph Node Recurrence Following Curative Resection of Esophageal Cancer.	Anticancer research	02507005	38	11	6453	6458	201811	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別	
66	Honma N†, Makita M, Saji S, Mikami T†, Ogata H†, Horii R, Akiyama F, Iwase T, Ohno S	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 病理学講座	Characteristics of adverse events of endocrine therapies among older patients with breast cancer.	Supportive Care in Cancer	09414355/ 14337339			Epub ahead of print		201902	Review	
67	Kagami S†, Funahashi K†, Ushigome M†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 病理学講座	Comparative study between colonic metallic stent and anal tube decompression for Japanese patients with left-sided malignant large bowel obstruction.	World journal of surgical oncology	14777819	16	1	210		201810	Review	
68	Ogata H†, Mitsuzuka Y†, Honma N†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 病理学講座, 医学部 医学科 放射線医学講座(大森), 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Sonographic visualization of nipple blood flow can help differentiate Paget disease from benign eczematous nipple lesions.	PLoS One	19326203	13	5	e0197156		201805	Review	
69	Saito F†, Osaku T†, Sumazaki M†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 総合診療・救急医学講座(大森), 医学部 医学科 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野(大森)	Drug-induced Fanconi syndrome in a patient with breast cancer: a case report	Toho Journal of Medicine	21891990	4	4	146	151	201812	Original Article	
70	Kikuch Y†, Shimada H*†, Yamaguchi K†, 他	医学部 医学科 外科学講座 一般・消化器外科学分野(大森), 医学部 医学科 内科学講座 消化器内科学分野(大森), 医学部 医学科 臨床腫瘍学講座	Systematic review of case reports of Japanese esophageal neuroendocrine cell carcinoma in the Japanese literature.	International Cancer Conference Journal	21923183			Online first		201902	Original Article	
71	Takuma Yotsumoto, Atsushi Sano†, Tsutomu Fukuda	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Clinical study of asbestos-related lung cancer diagnosed by asbestos medical examination	Cancer Reports				doi.org/10.1002/	/cnr2.1124	201807	Review	
72	Takuma Yotsumoto, Atsushi Sano†, Tsutomu Fukuda	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Clinical study of asbestos-related lung cancer diagnosed by asbestos medical examination.	Cancer Reports.				doi.org/10.1002/	cnr2.1124	201810	Review	
73	Atsushi Sano†	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Transmanubrial thoracotomy for superior mediastinal lesions.	International Journal of Surgery and Medicine		10,54	55		149	151	201808	Review
74	Satoshi Koezuka†, Yoshinobu Hata†, Hajime Otsuka†, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Lobectomy for lung cancer in a myelodysplastic syndrome patient with decreasing platelet aggregation	Journal of Cardiothoracic Surgery	doi.org/10.1186/			s13019-018-0777-7		201807	Review	
75	Atsushi Sano†	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Multidisciplinary team approach for complicated pneumothorax.	Journal of Thoracic Disease		doi: 10.21037/jtd.2018.06.94			2109	2110	201807	Review
76	Hajime Otsuka†, Takashi Makino†, Yoko Azuma†, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Surgical removal of an intrapulmonary aberrant needle: report of a case	Journal of Thoracic Disease		10	5	328	331	201805	Review	
77	Takashi Sakai, Keiju Aokage, Shinya Neri, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Link between tumor-promoting fibrous microenvironment and an immunosuppressive microenvironment in stage I lung adenocarcinoma.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)	01695002			10.1016/j.lungcan.2018.10.021		201812	Review	
78	Miyoshi S†, Isobe K†, Shimizu H†, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	The Utility of Virtual Bronchoscopy Using a Computed Tomography Workstation for Conducting Conventional Bronchoscopy	Respiration		10.1159/		000492074		201812	Review	

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別		
79	Atsushi Sanof	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Transient elevation of squamous cell carcinoma antigen levels with influenza virus infection.	Respirology Case Reports				doi: 10.10 02	/rcr2.	362	201809	Review	
80	Miyajima M, Watanabe A, Sato T, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	What factors determine the survival of patients with an acute exacerbation of interstitial lung disease after lung cancer resection?	Surgery today	09411291			10.10 07/s0 0595- 017- 1605- 8	404	415	201804	Review	
81	Atsushi Sanof	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Rib Radiography versus Chest Computed Tomography in the Diagnosis of Rib Fractures.	The Thoracic and Cardiovascular Surgeon				doi: 10.10 55.	/s- 0038	- 16458 87	201811	Review	
82	Iyoda At	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Biological and Clinicopathological Features of Pulmonary Large-cell Neuroendocrine Carcinoma-A New Era of Research	Toho Journal of Medicine				0.149 94/to hojme d.201 8-007	35	42	201806	Original Article	
83	Yoichi Ohtaki, Kimihiro Shimizu, Toshiteru Nagashima, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森)	Clinical and Radiological Discrimination of Solitary Pulmonary Lesions in Colorectal Cancer Patients.	World Journal of Surgery				42	4	1161	1170	201804	Review
84	Takashi Makino†, Hajime Otsuka†, Yoshinobu Hata†, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森), 医学部 医 学科 内科学講座 呼吸器内科 学分野(大森), 医学部 医学科 リハビリテーション医学研究室 (大森)	Long-acting muscarinic antagonist and long-acting β 2-agonist therapy to optimize chronic obstructive pulmonary disease prior to lung cancer surgery	Molecular and Clinical Oncology				10.38 92/m co.20 18.15 95	647	652	201805	Review	
85	Yoko Azuma†, Hajime Otsuka†, Takashi Makino†, 他	医学部 医学科 外科学講座 呼吸器外科(大森), 医学部 医 学科 病院病理学講座(大森)	Giant thymoma successfully resected via median sternotomy and anterolateral thoracotomy: a case report	Journal of Cardiothoracic Surgery				doi.or g/ 10.11 86/ s1301 9- 018-	10711- z	201804	Review		
86	Ogino K, Takahashi H*, Nakamura T, 他	医学部 医学科 心身医学講座 (大森)	Negatively skewed locomotor activity is related to autistic traits and behavioral problems in typically developing children and those with autism spectrum disorders.	Frontiers in Human Neuroscience				12	518	1	5	201812	Review
87	Takahashi H*, Nakamura T, Kim J, 他	医学部 医学科 心身医学講座 (大森)	Acoustic Hyper-Reactivity and Negatively Skewed Locomotor Activity in Children With Autism Spectrum Disorders: An Exploratory Study	Frontiers in Psychiatry				9	355	1	7	201808	Review
88	Nakao M*, Takeuchi T†:	医学部 医学科 心身医学講座 (大森)	Alexithymia and Somatosensory Amplification Link Perceived Psychosocial Stress and Somatic Symptoms In Outpatients with Psychosomatic Illness.	Journal of Clinical Medicine				7	5	112		201805	Review
89	Shirakawa T, Nakashima Y, Watanabe S, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	A novel heterozygous GLI2 mutation in a patient with congenital urethral stricture and renal hypoplasia/dysplasia leading to end-stage renal failure.	CEN Case Report				7	1	94	97	201805	Review
90	Maeda T, Kikuchi E, Hasegawa M, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Change of the 5a/5b ratio of urinary steroid metabolites in benign prostatic hyperplasia patients treated with dutasteride	Clinical Biochemistry				55		36	41	201805	Review
91	©Hideyo Oguchi1*, Makoto Tsujita2 *, Masahiko Yazawa3, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	The efficacy of exercise training in kidney transplant recipients: A Meta-analysis and Systematic Review	Clinical and Experimental Nephrology					**		201808	Original Article	

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別
92	©Hideyo Oguchi, Ken Sakai, Yutaka Yamaguchi, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Vasa recta hyalinosis reflects severe arteriopathy in renal allografts	Clinical and Experimental Nephrology				*	*	201902	Original Article
93	Gotoh Y, Uemura O, Ishikura K, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Correction to: Validation of estimated glomerular filtration rate equations for Japanese children.	Clinical and Experimental Nephrology	13421751	22	6	1477	1477	201812	Original Article
94	Harada R, Ishikura K, Shinozuka S, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Ensuring safe drug administration to pediatric patients with renal dysfunction: a multicenter study.	Clinical and Experimental Nephrology	13421751	22	4	938	946	201808	Original Article
95	Gotoh Y, Uemura O, Ishikura K, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Validation of estimated glomerular filtration rate equations for Japanese children.	Clinical and Experimental Nephrology	13421751	22	4	931	937	201808	Original Article
96	Hamasaki Y, Muramatsu M, Hamada R, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Long-term outcome of congenital nephrotic syndrome after kidney transplantation in Japan	Clinical and Experimental Nephrology	13421751	22	3	719	726	201806	Review
97	Masaki Muramatsu, Yoji Hyodo, Michael Sheaff, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Impact of Transplant Nephrectomy for Patient Survival Over the Past 15 Years: A Single-Center Study	Experimental and Clinical Transplantation				ahead of print		201809	Review
98	Masaki Muramatsu, Yoji Hyodo, Michael Sheaff, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Impact of Allograft Nephrectomy on Second Renal Transplant Outcome	Experimental and Clinical Transplantation		16	3	259	265	201804	Review
99	Masaki Muramatsu, Toshihide Mizutani, Kei Sakurabayashi, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Novel technique for repair of arteriovenous fistula with aneurysm	Journal of Vascular access				ahead of print		201809	Review
100	OGUCHI H*†, SAKAI K, YAMAGUCHI Y, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Interlobular hyaline arteriopathy reflects severe arteriopathy in renal allografts	Nephrology		23		*	*	201807	Review
101	Terano C, Ishikura K, Hamada R, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Practical issues in using eculizumab for children with atypical haemolytic uraemic syndrome in the acute phase: A review of four patients.	Nephrology (Carlton).		23	6	539	545	201806	Review
102	Hattori Motoshi, Mieno Makiko, Shishido Seiichiro, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Outcomes of Pediatric ABO-incompatible Living Kidney Transplantations From 2002 to 2015: An Analysis of the Japanese Kidney Transplant Registry.	Transplantation		102	11	1934	1942	201811	Review
103	○Yuki Kawaguchi, Hideyo Oguchi, Tetuo Mikami, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森)	Donor-recipient bodyweight mismatch may affect glomerular basement membrane thinning in electron microscopic examination of 1-hour renal allograft biopsy specimens	Transplantation Proceedings				*	*	201902	Review
104	Tetsushi Arimura, Tomoaki Shiba, Mao Takahashi, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大森), 医学部 医学科 眼科学講座 (大森)	Assessment of ocular microcirculation in patients with end-stage kidney disease	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology	ISSN: 0721-832X /1435-702X	256	12	2335	2340	201812	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
105	Takubo Y, Nemoto T, Obata Y, 他	医学部 医学科 精神神経医学講座(大森・大橋)	Effectiveness of Kangaroo Care for a Patient with Postpartum Depression and Comorbid Mother-Infant Bonding Disorder.	Case Reports in Psychiatry				91572 14		201902	Review
106	Sekizaki R, Nemoto T, Tsujino N, 他	医学部 医学科 精神神経医学講座(大森・大橋)	School mental healthcare services using internet-based cognitive behaviour therapy for young male athletes in Japan.	Early Intervention in Psychiatry		13	1	79	85	201902	Review
107	Aikawa S†, Kobayashi H, Nemoto T†, 他	医学部 医学科 精神神経医学講座(大森・大橋)	Social anxiety and risk factors in patients with schizophrenia: Relationship with duration of untreated psychosis	Psychiatry Research	0165-1781	263		94	100	201805	Review
108	Tsujino N, Tagata H, Baba Y, 他	医学部 医学科 精神神経医学講座(大森・大橋)	Survey of recognition and treatment of at-risk mental state by Japanese psychiatrists.	Psychiatry and Clinical Neurosciences		72	6	391	398	201806	Review
109	Katagiri N, Pantelis C, Nemoto T, 他	医学部 医学科 精神神経医学講座(大森・大橋)	Longitudinal changes in striatum and sub-threshold positive symptoms in individuals with an 'at risk mental state' (ARMS).	psychiatry research: neuroimaging		30	285	25	30	201903	Review
110	Toki T, Yoshida K, Wang R, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	De Novo Mutations Activating Germline TP53 in an Inherited Bone-Marrow-Failure Syndrome.	Am J Hum Genet.		103	3	440	447	201809	Review
111	Osumi T, Tsujimoto SI, Tamura M, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Recurrent RARB Translocations in Acute Promyelocytic Leukemia Lacking RARA Translocation.	Cancer Research		78	16	4452	4458	201808	Review
112	Hiejima E, Shibata H, Yasumi T, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Characterization of a large UNC13D gene duplication in a patient with familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3.	Clin Immunol.		191		63	66	201806	Review
113	Ohki K, Kiyokawa N, Saito Y, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Clinical and molecular characteristics of MEF2D fusion-positive precursor B-cell acute lymphoblastic leukemia in childhood, including a novel translocation resulting in MEF2D-HNRNP1 gene fusion.	Haematologica		104	1	128	137	201901	Review
114	Ohara A†, Furui T, Shimizu C, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Current situation of cancer among adolescents and young adults in Japan.	Int J Clin Oncol.		23	6	1201	1211	201807	Review
115	Takahashi H†, Kajiwara R, Kato M, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Treatment outcome of children with acute lymphoblastic leukemia: the Tokyo Children's Cancer Study Group (TCCSG) Study L04-16.	Int J Hematol		108	1	98	108	201807	Review
116	Kamae C, Imai K, Kato T, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Clinical and Immunological Characterization of ICF Syndrome in Japan.	J Clin Immunol		38		927	937	201810	Review
117	©Yumiko Komine, Misa Watanabe, Takehiko Soutome, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Maternal Consumption of Lactobacillus GG During Pregnancy Prevents Infant Eczema at 1 Year of Age	Journal of Allergy & Therapy		9	2	277		201805	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別		
118	Shinichi Takatsuki, Shun Yanai, Satoshi Ikehara, 他	医学部 医学科 小児科学講座(大森)	Clinical Effects of Syncope on Disease Severity and Adverse Outcomes in Children with Idiopathic and Heritable Pulmonary Arterial Hypertension	Pediatric cardiology	01720643			Epub ahead of print	Epub ahead of print	201810	Review		
119	Oishi Y, Ohta H, Hirose T, 他	医学部 医学科 新生児学講座(大森)	Combined effects of body position and sleep status on the cardiorespiratory stability of nearterm infants	Scientific Reports				SREP	17	48919	A	201807	Review
120	◎Nemoto M,Matuura C,Sakaeyama Y, 他	医学部 医学科 脳神経外科学講座(大森), 医学部 医学科 脳神経外科学講座(佐倉)	Usefulness of Electromagnetic-guided neuronavigation system for neonates and infants	J Jpn Soc Simulation Surg				0	0	00	00	201812	Original Article
121	◎Andoh S,Matsuura C,Sakaeyama Y, 他	医学部 医学科 脳神経外科学講座(大森), 医学部 医学科 脳神経外科学講座(佐倉)	Acute contrecoup epidural hematoma that developed without skull fracture in two adults:two case reports.	J Med Case Rep				12	1	0	0	201806	Original Article
122	◎ Nemoto M,Masuda H,Sakaeyama Y, 他	医学部 医学科 脳神経外科学講座(大森), 医学部 医学科 脳神経外科学講座(佐倉)	Clinical characteristics of subarachnoid hemorrhage with an intracerebralhematoma and pgnostic factors.Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases,	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases				27	5	1160	1166	201805	Review
123	Shiroshita H, Inomata M, Bando T, 他	医学部 医学科 形成外科学講座(大森・大橋・佐倉)	Endoscopic surgery in Japan: The 13th national survey (2014-2015) by the Japan Society for Endoscopic Surgery.	Asian Journal of endoscopic surgery				12	1	7	18	201901	Original Article
124	Okaneyama T†, Onishi K†, Saze M†, 他	医学部 医学科 形成外科学講座(大森・大橋・佐倉)	A case of clitoral hypertrophy of unknown origin	Case Reports in Obstetrics and Gynecology					2018	1	3	201811	Review
125	Ogino A†, Onishi K†, Okada E†, 他	医学部 医学科 形成外科学講座(大森・大橋・佐倉)	Unit Advancement Flap for Lower Lip Reconstruction.	JOURNAL OF CRANIOFACIAL SURGERY				29	3	668	670	201805	Review
126	Oji T†, Hayashi A†, Ogino A†, 他	医学部 医学科 形成外科学講座(大森・大橋・佐倉)	Modified Lengthening Temporalis Myoplasty Involving an Extended Lazy-S Incision to Avoid Facial Scar Formation.	JOURNAL OF CRANIOFACIAL SURGERY				29	3	572	577	201805	Review
127	Tsuji K†, Takahashi H†, Fukano R†, 他	医学部 医学科 整形外科科学講座(大森)	Septic Arthritis of the Hand during Treatment of Complex Regional Pain Syndrome	Open Journal of Orthopedics				8		317	321	201808	Review
128	Ishigaki K†, Aoki H†, Saito M, 他	医学部 医学科 整形外科科学講座(大森)	A Case of Simultaneous Total Knee Arthroplasty in Congenital Dislocation of the Patella	Open Journal of Orthopedics				8		267	272	201807	Review
129	Kamakura D†, Iida Y†, Hasegawa K†, 他	医学部 医学科 整形外科科学講座(大森)	Spontaneous Extracranial Vertebral Artery Dissociation: A Case Report and Review of the Literature	Open Journal of Orthopedics				8		221	226	201806	Review
130	Suzumori N, Sekizawa A, Ebara T, 他	医学部 医学科 産科婦人科学講座(大森)	Fetal cell-free DNA fraction in maternal plasma for the prediction of hypertensive disorders of pregnancy.	European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology					224	165	169	201805	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
131	Ishii K, Wada S, Takano M, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Survival Rate without Brain Abnormalities on Postnatal Ultrasonography among Monochorionic Twins after Fetoscopic Laser Photocoagulation for Selective Intrauterine Growth Restriction with Concomitant Oligohydramnios	Fetal diagnosis and therapy	10153837/ 14219964	435	1	21	27	201901	Review
132	Tanaka H, Katsuragi S, Hasegawa J, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	The most common causative bacteria in maternal sepsis-related deaths in Japan were group A Streptococcus: A nationwide survey	Journal of Infection and Chemotherapy	1341321X	25	1	41	44	201901	Review
133	Tanaka H, Katsuragi S, Hasegawa J, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Relationship between reproductive medicine for women with severe complications and maternal death in Japan	The Journal of Obstetrics and Gynaecology	13409654	45	1	164	167	201901	Review
134	Katsuragi S, Tanaka H, Hasegawa J, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Analysis of preventability of stroke-related maternal death from the nationwide registration system of maternal deaths in Japan	The Journal of maternal-fetal medicine	10570802	31	16	2097	2104	201808	Review
135	Suzumori N, Sekizawa A, Takeda E, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Classification of factors involved in nonreportable results of noninvasive prenatal testing (NIPT) and prediction of success rate of second NIPT.	Prenatal Diagnosis				999	999	201812	Review
136	Harada T, Kuji N, Ishihara O, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Guideline for cryopreservation of unfertilized eggs and ovarian tissues in Japan Society of Reproductive Medicine	Reproductive Medicine and Biology	doi: 10.1002/rm b2.12236	18	1	3	6	201810	Review
137	Eijiro Hayata†, Masahiko Nakata†, Mayumi Takanof, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Safety of Uterine Fundal Pressure Maneuver during second-stage of labor in a tertiary perinatal medical center: a retrospective observational study	Taiwanese journal of obstetrics & gynecology	10284559			in pres		201810	Review
138	Takano M, Nakata M, Nagasaki S, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Assessment of diastolic function of normal fetal heart using dual-gate Doppler.	Ultrasound in obstetrics & gynecology : the official journal of the International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology	09607692/ 14690705	52	2	238	242	201808	Review
139	Murata S, Takano M, Kagawa Y, Sumie M, Nakata M	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	The experience of modified sequential selective laser photocoagulation of communicating vessels technique for twin-twin transfusion syndrome.	The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine	14767058	31	9	1137	1141	201805	Review
140	Takano M, Nakata M, Oji A, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森)	Utility of fetal anteroposterior to transverse cerebellar diameter ratio to exclude cerebellar hypoplasia in trisomy 18.	The journal of obstetrics and gynaecology research	13418076	44	6	1031	1035	201806	Review
141	Hayata E†, Matsumoto †, Kitazawa T†, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森), 医学部 医学科 社会医学講座/公衆衛生学, 医学部 医学科 社会医学講座 /医療政策・経営科学	Cost of illness of the obstetrical diseases in Japan: a time-trend and future projection analysis	Toho Journal of Medicine	21891990	4	2	58	65	201806	Review
142	Shinichi Komiyama†, Tsuyoki Kugimiya †, Chiaki Takeya, 他	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森), 医学部 医学科 産科婦人科学講座(大橋)	Platinum-resistant recurrent ovarian cancer with long survival on bevacizumab and gemcitabine.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	13418076	44	7	1330	1334	201807	Review
143	Shinichi Komiyama†, Tsuyoki Kugimiya †, Kaneyuki Kubushiro.	医学部 医学科 産科婦人科学 講座(大森), 医学部 医学科 産科婦人科学講座(大橋)	Safety and efficacy of neoadjuvant chemotherapy containing bevacizumab and interval debulking surgery for advanced epithelial ovarian cancer: A feasibility study.	Journal of surgical oncology	00224790	118	4	687	693	201809	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
144	Shinichi Komiya†, Masaru Nagashima †, Tomoko Taniguchi†, 他	医学部 医学科 産科婦人科学講座(大森), 医学部 医学科 産科婦人科学講座(大橋), 医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Ovarian Clear Cell Carcinoma Detected During Long-Term Management of Endometriotic Cysts in Young Patients: Possible Heterogeneity of this Tumor.	Gynecologic and obstetric investigation	03787346/ 1423002X		13	1	8	201811	Review
145	Tadahiro Shoji, Shinichi Komiya †, Junzo Kigawa, 他	医学部 医学科 産科婦人科学講座(大森), その他	An open-label, randomized, phase II trial evaluating the efficacy and safety of standard of care with or without bevacizumab in platinum-resistant epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer patients previously treated with	BMC cancer	14712407	18	1	771	771	201807	Review
146	Shinichi Komiya†, Kazuyoshi Kato, Yuki Inokuchi, 他	医学部 医学科 産科婦人科学講座(大森), その他	Bevacizumab combined with platinum-taxane chemotherapy as first-line treatment for advanced ovarian cancer: a prospective observational study of safety and efficacy in Japanese patients (JGOG3022 trial)	International Journal of Clinical Oncology	13419625	24	1	103	114	201901	Review
147	Suzuki K, Yagami A, Ito A, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Positive reactions to gold sodium thiosulfate in patch test panels (TRUE Test) in Japan: A multicentre study.	Contact Dermatitis.		80	2	114	117	201902	Review
148	Inaoki M, Oishi K, Nishijima C, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Two cases of pemphigus vulgaris in remission showing high titer of anti-desmoglein 3 antibodies.	J Dermatol.		doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14603	doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14603	doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14603	doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14603	201808	Review
149	Saito K, Iwabuchi†, Wada Y, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Case of herpes zoster with herpetic folliculitis complicated with meningitis: Immunocytochemistry.	J Dermatol.		Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	201903	Review
150	Fujii M, Tanaka H†, Nagahata H, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Psoriasisiform keratosis shows abnormal keratinization and increased number of T-helper 17 cells in psoriasisiform keratosis implying a pathogenic link to psoriasis.	J Dermatol.		45	12	1381	1388	201812	Review
151	KOBAYASHI K, KURIHARA Y, YAMAGAMI J, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Generalized eruptive histiocytoma developing into xanthoma disseminatum with central diabetes insipidus.	Journal of Dermatology.		doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14845	doi: 10.11 11/13 46- 8138- 14845	1	2	201903	Review
152	Masunaga T, Kubo A, Ishiko A†	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Splice site mutation in COL7A1 resulting in aberrant in-frame transcripts identified in a case of recessive dystrophic epidermolysis bullosa, pretibial.	Journal of Dermatology.		45		742	745	201806	Review
153	Ueda K, Kawai T, Senno H, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Histopathological and electron microscopic study in dogs with patellar luxation and skin hyperextensibility.	Journal of Veterinary Medical Science		80	8	1309	1316	201808	Review
154	Yoshida K†, Sadamoto M, Sasaki T, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座(大森)	Junctional epidermolysis bullosa without pyloric atresia due to a homozygous missense mutation in ITGB4.	Junctional epidermolysis bullosa without pyloric atresia due to a homozygous missense		42	2	e61	e63	201902	Original Article
155	Hori S, Mitsui Y, Iwai H, 他	医学部 医学科 泌尿器科学講座(大森)	Giant Penile Lymphedema Caused by Chronic Penile Strangulation with Rubber Band: A Case Report and Review of the Literature	Case reports in urology	20906978	10.11 55/20 18/85 98195		10.11 55/20 18/85 98195	10.11 55/20 18/85 98195	201805	Review
156	Kobori Y, Ota S, Okada H, 他	医学部 医学科 泌尿器科学講座(大森)	Investigation of treatment for azoospermia due to male hypogonadotropic hypogonadism in Japan DOI: 10.1111/iju.13823	International Journal of Urology		26		134	141	201902	Original Article

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	課題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
157	Mitsui Y, Kobayashi H, Hori S,他	医学部 医学科 泌尿器科学講座(大森)	U-score system for predicting time to recurrence after urethral reconstruction in patients with anterior urethral stricture.	International journal of urology	09198172	25	12	1015	1016	201812	Review
158	Shirai M, Nagao K	医学部 医学科 泌尿器科学講座(大森)	Relationship between penile size and somatometric parameters in 285 Japanese patients with erectile dysfunction	Jpn J Sex Med		33	3	235	242	201812	Original Article
159	Matsumoto T, Itokawa T, Shiba T, 他	医学部 医学科 眼科学講座(大森)	Intravitreal bevacizumab treatment reduces ocular blood flow in retinopathy of prematurity: a four-case report.	Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology = Albrecht von Graefes Archiv für klinische und experimentelle Ophthalmologie	0721832X	256	11	2241	2247	201811	Review
160	Hori Y	医学部 医学科 眼科学講座(大森)	Secreted Mucins on the Ocular Surface	Investigative ophthalmology & visual science	01460404	59		DES151	DES156	201812	Review
161	Shiba T, Takahashi M, Matsumoto T, 他	医学部 医学科 眼科学講座(大森)	Pulse Waveform Analysis in Ocular Microcirculation by Laser Speckle Flowgraphy in Patients with Left Ventricular Systolic and Diastolic Dysfunction.	Journal of vascular research	10181172/ 14230135	55	6	329	337	201811	Review
162	Shiba T, Takahashi M, Shiba C, 他	医学部 医学科 眼科学講座(大森)	The relationships between the pulsatile flow form of ocular microcirculation by laser speckle flowgraphy and the left ventricular end-diastolic pressure and mass.	The international journal of cardiovascular imaging	15695794	34	11	1715	1723	201811	Review
163	Uchino M, Kawashima M, Uchino Y, 他	医学部 医学科 眼科学講座(大森)	The evaluation of dry eye mobile apps for screening of dry eye disease and educational tear event in Japan.	The ocular surface	15420124	16	4	430	435	201810	Review
164	Niibe Y†*, Jingu K, Onishi H	医学部 医学科 放射線医学講座(大森)	Olig-recurrence and Sync-oligometastases	Journal of thoracic oncology	15560864/ 15561380	13	4	e59	e60	201804	Review
165	Mizumura S, Nishikawa K, Murata A, 他	医学部 医学科 放射線医学講座(大森)	Improvement in the measurement error of the specific binding ratio in dopamine transporter SPECT imaging due to exclusion of the cerebrospinal fluid fraction using the threshold of voxel RI count.	annals of nuclear medicine		32	4	288	296	201805	Review
166	Satomoto M, Sun Z, Adachi YU, 他	医学部 医学科 麻酔科学講座(大森)	Sevoflurane preconditioning ameliorates lipopolysaccharide-induced cognitive impairment in mice.	Exp Anim.		67	2	193	200	201805	Original Article
167	Taharabaru S, Satomoto M, Tamura T, 他	医学部 医学科 麻酔科学講座(大森)	Smaller effect of propofol than sevoflurane anesthesia on dopamine turnover induced by methamphetamine and nomifensine in the rat striatum: an in vivo microdialysis study.	Exp Anim.		67	2	147	153	201805	Original Article
168	Sun Z, Satomoto M, Adachi YU, 他	医学部 医学科 麻酔科学講座(大森)	Blood-brain barrier disruption caused by neonatal sevoflurane-induced depends on exposure time and is reversible in mice.	Korean J Anesthesiol.				Epub		201902	Review
	Kenji Toyoshima, Atsushi Araki, Yoshiaki Tamura, 他	医学部 医学科 リハビリテーション医学研究室(大森)	Development of the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System 8-items,a short version of the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System 21-items,for the assessment of cognitive and daily	Geriatrics Society				1458	1462	201811	

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始頁	終了頁	出版年月	論文種別
169	Riyo Komatsu, Tatsuma Okazaki, Satoru Ebihara†, 他	医学部 医学科 リハビリテーション医学研究室(大森)	Aspiration pneumonia induces muscle atrophy in the respiratory, skeletal, and swallowing systems	Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle		2018	9	643	653	201808	Review
170	Izukura H†	医学部 医学科 リハビリテーション医学研究室(大森)	Laser Therapy Awards 2017, messages from the winners, good paper award	Laser Therapy		27	1	9	9	201804	Original Article
171	Yoko Tsukita, Tatsuma Okazaki, Satoru Ebihara†, 他	医学部 医学科 リハビリテーション医学研究室(大森)	Beneficial effects of sunitinib on tumor microenvironment and immunotherapy targeting death receptor5	ONCOIMMUNOLOGY		8	2	e1543-526-1	e1543-526-13	201811	Review
172	Koike H†, Morita T†*, Tatebe J, 他	医学部 医学科 臨床検査医学研究室(大森)(~H31.3), 医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	The relationship between serum indoxyl sulfate and the renal function after catheter ablation of atrial fibrillation in patients with mild renal dysfunction.	Heart and Vessels	09108327			doi: 10.1007/s00380-018-1288-0		201811	Review
173	Okubo Y†, Yoshioka E, Suzuki M, 他	医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Diagnosis, Pathological Findings, and Clinical Management of Gangliocytic Paraganglioma: A Systematic Review	Frontiers in Oncology	2234943X	8	291	1	8	201807	Review
174	Noguchi G, Furuya M, Okubo Y†, 他	医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer without cutaneous manifestations in two Japanese siblings.	International Journal of Urology		Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	201807	Review
175	Hori Y†, Shibuya K†.	医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Role of FKS Gene in the Susceptibility of Pathogenic Fungi to Echinocandins.	Medical Mycology journal	21856486	59	2	E31	40	201804	Original Article
176	Suzuki M, Nakatani Y, Ito H, 他	医学部 医学科 病院病理学講座(大森)	Pulmonary adenocarcinoma with high-grade fetal adenocarcinoma component has a poor prognosis, comparable to that of micropapillary adenocarcinoma.	Modern Pathology	15300285	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	201805	Review
177	Masahiko Harada, Satoshi Tabako, Yuichiro Fujii, 他	医学部 医学科 臨床生理機能学研究室(大森)(~H31.3), 医学部 医学科 内科学講座 循環器内科学分野(大森)	Correlation between plasma brain natriuretic peptide levels and left atrial appendage flow velocity in patients with non-valvular atrial fibrillation and normal left ventricular systolic function	Journal of Echocardiography		16	2	72	80	201804	Original Article
178	Ohashi Y†, Joki N†, Yamazaki K†, 他	医学部 医学科 腎臓学講座(大森), 医学部 医学科 腎臓学講座(佐倉), 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Changes in the fluid volume balance between intra- and extracellular water in a sample of Japanese adults aged 15-88 yr old: a cross-sectional study.	American journal of physiology. Renal physiology	03636127/15221466	314	4	F614	F622	201804	Review
179	Ohashi Y†, Sakai K†, Hase H†, 他	医学部 医学科 腎臓学講座(大森), 医学部 医学科 腎臓学講座(佐倉), 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Dry weight targeting: The art and science of conventional hemodialysis.	Seminars in dialysis	08940959/1525139X			1	10	201808	Review
180	Ohashi Y†, Sakai K†, Hase H†, 他	医学部 医学科 腎臓学講座(大森), 医学部 医学科 腎臓学講座(佐倉), 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Dry weight targeting: The art and science of conventional hemodialysis.	Seminars in dialysis	08940959/1525139X	31	6	551	556	201811	Review
181	Ohashi Y†, Sakai K†, Hase H†, 他	医学部 医学科 腎臓学講座(大森), 医学部 医学科 腎臓学講座(佐倉), 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Dry weight targeting: The art and science of conventional hemodialysis.	Seminars in dialysis	08940959/1525139X	31	6	551	556	201809	Review

高度の医療技術の評価の実績として、発表した英語論文について
(2018年度実績)

No.	著者・共著者	講座名	標題	掲載誌名	ISSN	巻	号	開始 頁	終了 頁	出版 年月	論文 種別
182	Ohashi Yf, Sakai Kf, Hase Hf, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大橋), 医学部 医学科 腎臓 学講座(佐倉), 医学部 医学科 腎臓学講座(大森)	Dry weight targeting: The art and science of conventional hemodialysis.	Seminars in dialysis	08940959/ 1525139X	31	6	551	556	201811	Review
183	Ohashi Yf, Joki Nf, Yamazaki Kf, 他	医学部 医学科 腎臓学講座 (大橋), 医学部 医学科 内科 学講座 消化器内科学分野(佐 倉), 医学部 医学科 腎臓学講 座(大森)	Changes in the fluid volume balance between intra- and extracellular water in a sample of Japanese adults aged 15-88 yr old: a cross-sectional study.	American journal of physiology. Renal physiology	03636127/ 15221466	314	4	F614	F622	201804	Review
184	Nagasawa T, Hirata A, Niiyama S, 他	医学部 医学科 皮膚科学講座 (大橋), 医学部 医学科 形成 外科学講座(大森・大橋・佐倉), 医学部 医学科 病院病理学講 座(大橋)	Successful treatment of porocarcinoma with maxacalcitol and imiquimod.	Dermatologic Therapy				e1283 0. doi: 10.11 11/dt h.128 30		201901	Review
185	Harada M, Jiang Mf, Terai Kf, 他	医学部 医学科 臨床検査医学 研究室(佐倉)(~H31.3), 医学 部 医学科 病院病理学講座 (佐倉), 医学部 医学科 脳神 経外科学講座(大森), 医学部 医学科 脳神経外科学講座(佐 倉)	Levels of circulating soluble LR11, a regulator of smooth muscle cell migration, are highly associated with atherosclerotic plaques in patients with carotid artery stenosis.	Clinica chimica acta; international journal of clinical chemistry	00098981	490		69	76	201812	Review
186	Chiba Tf, Sakuma Kf, Komatsu Tf, 他	薬学部 医療薬学教育センター /薬物治療学研究室, 医学部 医学科 内科学講座 循環器内 科学分野(佐倉), 医学部 医学 科 眼科学講座(大森)	Physiological role of nitric oxide for regulation of arterial stiffness in anesthetized rabbits	Journal of Pharmacological Sciences	13478613/ 13478648	139	1	42	45	201901	Review

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

(注)2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

(注)3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

(注)4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

(注)5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

(注)6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

- 1:原著論文(Original Article)
- 2:総説(Review)
- 3:症例報告論文(Case Reports)
- 9:その他

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 設置について、医学部長および病院長の責務について、倫理委員会の役割について、委員ならびに事務に従事する者の責務について、教育、研修について、申請の手続きについて、審査事項について、報告について、記録の保存について、審査結果等の公表について、実施状況の報告、調査、中止および変更命令について、臨時の専門部会の設置について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 設置について、目的について、構成員について、職務について、予算について、事務について、規程改定について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 「APRIN eラーニングプログラム」 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針および利益相反について」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

東邦大学医学部は「良き臨床医を育てる」ことを学是としている。「良き臨床医」とは、患者さんを全人的にかつ高い技術と適切な態度で診ることができる医師と考えている。卒後2年間の前期臨床研修が終了し、3年目以降は各自それぞれの専門分野に所属し研修を行うが、この後期臨床研修は、将来の医師としての質を決定する重要な期間である。当院では、卒後3年目以降は、5年間のレジデント、さらに5年間のシニアレジデントの職位を設け、大学付属病院においては専門性を求めた研修を行い、教育関連病院においては、それぞれの科の一般性を軸とした研修を行うことにより、幅広くかつ専門性の高い両輪での教育を実践している。現在、具体的な後期研修プログラムには42のコース（口腔外科含む）があり（<http://www.trainee.med.toho-u.ac.jp/kouki/program.htm>）、臨床医としての基礎から専門性の高い領域までの教育が行われ、各分野の認定医・専門医・指導医などの資格を取得できる教育体制を整えている。もちろん、臨床のみならず、研究活動を同時に行い、学位を取得することも可能である。さらに、後輩の教育も重要な責務であり、医学生や研修医の教育を通じて、「良き臨床医」としての基盤を構築できる研修体制を確立している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	139.0人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
瓜田 純久	内科	教授	34年	
関東 裕美	アレルギー科	臨床教授	38年	
南木 敏宏	リウマチ科	教授	28年	
島田 長人	外科	臨床教授	37年	
伊豫田 明	呼吸器外科	教授	28年	
船橋 公彦	消化器外科	教授	32年	
渡邊 善則	心臓血管外科	教授	37年	
黒岩 実	小児外科	教授	39年	
水野 雅文	精神科	教授	33年	
小原 明	小児科	教授	40年	
土谷 一晃	整形外科	教授	41年	
周郷 延雄	脳神経外科	教授	31年	
石河 晃	皮膚科	教授	33年	
中島 耕一	泌尿器科	教授	25年	
森田 峰人	産科	教授	36年	
森田 峰人	婦人科	教授	36年	
堀 裕一	眼科	教授	24年	
和田 弘太	耳鼻咽喉科	教授	23年	
寺原 敦朗	放射線科	教授	33年	
関谷 秀樹	歯科	准教授	40年	
落合 亮一	麻酔科	教授	36年	
本多 満	救急科	准教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
◇ 輸液ポンプ等医療機器に関する研修：5/8, 9, 10（3回）：136名 ◇ BLS・AED研修：7/21, 8/6, 8/25, 9/22, 11/10, 11/17（6回）：129名 ◇ インフォームドコンセント：10/25～26（2回）：120名 ◇ 看護倫理研修Ⅰ：10/9, 10/10（2回）113名 ◇ 看護倫理研修Ⅱ：12/17, 12/21（2回）：37名 ◇ エンド・オブ・ライフ・ケア：11/3～4（2回）：26名（内、院外18名）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
◇ メンバーシップ研修：7/11, 7/12（4回）：110名 ◇ コーチング研修：11/12（1回）：33名 ◇ リーダー研修：6/16（1回）：47名 ◇ 問題解決技法：5/18, 11/28（2回）：46名 ◇ リーダーシップ研修：7/31, 1/10（2回）：52名 ◇ コミュニケーション研修：9/26, 10/31（2回）：37名 ◇ プリセプター研修：2/21, 2/28（2回）：106名 ◇ 看護補助者研修（各種）：6/12, 7/4, 8/30, 8/31, 12/11, 12/12（12回）：120名 ◇ 看護管理者研修（各種）：4/24～26, 9/7, 10/27, 11/10, 1/19, 1/26, 2/8（5回）：221名 ◇ 看護教育担当・指導者研修：5/11, 5/22, 1/17, 2/13（4回）：96名 ◇ 院内コンフリクト・マネジメント研修：9/15, 2/2（2回）：56名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容：研修の期間（実施回数）：研修の参加人数 ◇ エンド・オブ・ライフ・ケア：11/3～4（2回）：26名（内、院外18名）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 瓜田 純久
管理担当者氏名	医療安全管理部 部長 渡邊正志、感染管理部 部長 舘田一博、薬剤部 部長 西澤健司、臨床工学部 次長 元木康裕、総合相談部 部長 廣井直樹、中央放射線部 次長 島田豊、医療情報管理センター 課長補佐 草道裕子、総務課 次長 平松武昌、人事課 課長 樋山恵、医事課 次長 奥喜代江

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	医療情報管理センター
		処方せん	医療情報管理センター
		手術記録	医療情報管理センター
		看護記録	医療情報管理センター
		検査所見記録	医療情報管理センター
		エックス線写真	医療情報管理センター
		紹介状	医療情報管理センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報管理センター
		従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	診療科及び総務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療科及び総務課
		高度の医療の研修の実績	診療科及び総務課
		閲覧実績	医療情報管理センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部及び医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課及び医療安全管理部	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理部	・当該規程・規約等に準じ、担当部門において、コンピュータ又はファイル等により保管、管理している
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部及び中央放射線部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課及び医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課及び感染管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理センター
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品等管理部
		監査委員会の設置状況	総務課及び法人本部総務部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合相談部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課及び医療安全管理部		
		・当該規程・規約等に準じ、担当部門において、コンピュータ又はファイル等により保管、管理している	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部総務課 次長 平松 武昌
閲覧担当者氏名	事務部総務課 課長補佐 涌井 芳樹
閲覧の求めに応じる場所	個人情報管理室
閲覧の手続の概要	
病院もしくは病院長宛の公文書による依頼・照会に基づき、閲覧の申込みを受付ける。 受け付けられた内容に対し、病院長が認めた内容について閲覧を実施する。 なお、閲覧は、管理部署（事務部総務課）職員ならびに関係の教職員が立ち会い、指定の 閲覧場所（個人情報管理室）にて行う。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○ 有・無
<p>・ 指針の主な内容： 指針には下記の内容が文書化されている</p> <p>①安全管理に関する基本的考え方</p> <p>②医療安全管理委員会等、医療機関内の組織に関する基本的事項</p> <p>③従業者に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針</p> <p>④事故報告等の医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</p> <p>⑤医療事故等発生時の対応に関する基本方針（医療安全管理委員会に報告すべき事例の範囲、報告手順を含む。）</p> <p>⑥医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 （患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。）</p> <p>⑦患者からの相談への対応に関する基本方針</p> <p>⑧その他医療安全推進のために必要な基本方針 （高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施することを含む。）</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 【医療安全管理委員会】	
<p>・ 設置の有無（ ○有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年49回（週1回）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①重大な問題、医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合は、速やかに原因究明のための調査及び分析を行うこと。 原因究明のための調査及び分析は、客観的事実から構造的原因を分析するものであり、個人の責任追及を行うものではないことに留意すること。</p> <p>②分析の結果を活用した医療安全の確保を目的とした改善方策の立案及び実施並びに従業者への周知を行うこと。医療安全の確保を目的とした改善方策の立案及び実施並びに従業者への周知とは、組織としての改善方策を企画立案及び実施し、医療機関において情報を共有するものであること。また、改善方策は、背景要因及び根本原因を分析し検討された効果的な再発防止策等を含むものであること。</p>	

③改善方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しを行うこと。

改善方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しとは、同様の事故等の発生状況の確認や、医療安全管理委員会の構成員が定期的に関係部署の巡回を行うなどをして調査を行い、必要に応じて医療安全の知見に基づいた見直しを行うものであること。

④重要な検討内容について、患者への対応状況を含め管理者へ報告すること。

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年13回

・ 研修の内容（すべて）：

- * 第1回 全体研修（5/28～5/29：1,269名）
- * 第1回 DVD上映会（6/25・27・28、7/2・3・4：1,028名）
- * 第1回 医療安全勉強会（4/13：17名）
- * 第2回 医療安全勉強会（5/11：27名）
- * 第3回 医療安全勉強会（7/20：25名）
- * 第4回 医療安全勉強会（9/21：16名）
- * 第2回 全体研修（11/26～11/27：1,057名）
- * 第2回 DVD上映会（12/7・10・12・13・17・21：1,221名）
- * 第5回 医療安全勉強会（10/19：22名）
- * 第6回 医療安全勉強会（11/16：25名）
- * 第7回 医療安全勉強会（1/28：28名）
- * 第8回 医療安全勉強会（2/18：23名）
- * 第9回 医療安全勉強会（3/26：65名）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（○有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- * 院内での医療事故やヒヤリハット、その他報告が必要な事象に遭遇した場合、インシデント・アクシデント支援システム（あんしん君）へ入力し、医療安全管理部へ報告する。
死亡報告（モニタ君）システムを用いて行う。
- * 管理者が定める21項目の報告は、「毎日報告」（院長報告）で行い、リアルタイムに事例発生をモニタリングする。
その後、院長報告基準以上の事例については後日、医療安全報告書の提出を求める。
- * 改善策の策定は、毎週開催される医療安全管理委員会において、あんしん君で報告され全事例を評価し、改善が必要と思われる事例については改善策の策定を求める。院内で協議すべき事例や統一すべき改善策は医療の質統括会議へ提出する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>骨子「院内感染より患者及び医療従事者の身を守るために、手指衛生及び感染予防策を徹底させる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、感染対策に関する基本的考え方 2、感染対策のための委員会 3、感染対策のための従事者に対する研修に関する基本指針 4、感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5、感染症発生時の対応に関する基本方針 6、他病院との連携に関する基本方針 7、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8、その他の感染対策の推進のために必要な指針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：毎月1回定例として委員会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚労省・東京都等からの通達 ・ 感染症報告書の集計報告 ・ 主要菌サーベイランス報告 ・ 抗菌薬使用状況、耐性菌発生件数報告 ・ ICTラウンド結果報告 ・ 耐性菌警告書発行報告 ・ マニュアル改定・作成報告 ・ 研修報告 ・ 感染防止対策加算における連携に関する活動報告 <p>等を行い、院内感染上問題となる状況やその徴候について審議。また、衛生委員会、医療安全管理部と連携し、感染対策の推進を図っている。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 24 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象とした全体研修を年2回実施 ・ 新規採用者に対する研修の実施…医師、研修医、看護師対象に院内感染の基礎知識等 	

- ・ 各職種にあわせた研修の実施

医師、研修医、看護師向け：微生物検査の提出と結果の解釈、感染症診療の基本とTDM

- ・ 届出、結核画像の読み方、血液媒介感染症と職業感染予防、MRSAの基礎知識、血流感染対策、血管留置カテーテル管理

その他：薬剤師、放射線技師、ヘルパー、クラーク、清掃員業務士等

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 検査部における各種耐性菌の早期発見
 - ・ 電子カルテを利用した感染情報の共有
 - ・ 臨床現場における感染予防策の徹底と耐性菌警告文書の発行
 - ・ 各種サーベイランスの実施
 - ・ 病棟・外来・その他施設の環境ラウンド及び耐性菌検出患者のラウンドの実施
 - ・ 抗菌薬適正使用の教育・推進活動
 - ・ マニュアルの見直しと改訂

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報 ・ 使用方法に関する事項 ・ 業務手順書に関する事項 ・ 副作用が発生した場合の対応に関する情報 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の業務手順書の作成 ・ 医薬品の安全使用のための研修 ・ 業務手順書に基づく実施状況の確認・記録 ・ 改善のための方策の実施 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) : 無し ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) PMDAおよび製薬企業からの医薬品安全情報を速やかに伝達 (お知らせの配布・院内ネット (メール配信) の利用・会議報告)。 2) 個別対応が必要な場合は、処方科・医師を調査・特定し、個別に情報を伝達している。(ノベルジン錠の適応追加に伴う用法・用量のオーダリング初期設定変更についての連絡及び注意) 3) セーフティマネージャー会議等を通じて報告内容を全職員に閲覧し周知を図っている。 4) 院内副作用報告は医薬品情報室で一元化。薬事委員会で報告後職員にも情報を発信している (26件)。 <p>以上の情報は院内ネットで職員は全て随時入手できる体制となっている。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年125回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 除細動器の院内配置と使用時の留意点について講義 ・ 人工呼吸器の操作、注意事項についての講義および実技指導 ・ 放射線治療装置の操作、注意事項についての講義 ・ 閉鎖式保育器の操作、注意事項についての講義および実技指導 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無) ・ 保守点検の主な内容： ・ 外部委託（メーカー）定期保守：人工呼吸器、放射線治療装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器、人工心肺装置、補助循環装置 ・ 院内実施定期保守：除細動器、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無) PMDA（医薬品医療機器総合機構）メディナビに登録 ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無し ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 新規医療機器・診療材料導入手順の改訂 ② 院内対応機器保守点検実施時の検証手順追加 ③ 研修等の理解度確認手段の導入（eラーニング導入） 	

(注) 前年度の実績を記入すること

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>⇒医療安全・医療の質に関わる担当者を発揮し、当院の医療安全を統括する。 当院では安全担当副院長がその役割を担う。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品安全管理責任者は、医療法施行規則第9条23第1項第3号イ、ロに掲げる措置を適切に実施するとともに、その担当者に医療安全管理室専従の薬剤師を配置している。 ・医療安全管理室専従の薬剤師を活用し、新規採用職員・中途採用職員に対する医薬品安全使用のための教育を実施している。 ・医薬品に関する情報の収集・整理は、医薬品情報室に行わせる。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品安全管理責任者は医療安全管理室専従薬剤師に指示し、各部署からの未承認や適応外・禁忌に使用する医薬品情報を収集し報告を受ける。医療安全管理室専従薬剤師は医療安全管理部会議にて報告を行う。倫理委員会での審議が必要であると判断された場合は医薬品安全管理責任者および病院長に報告し、当該科に連絡する。 これらの報告から医薬品安全管理責任者は、必要に応じ医薬品の適正使用にかかる注意喚起（禁忌等や緊急安全性情報等）を院内全体に行わせ、必要に応じ手順の見直しを行っている。 ・担当者の指名の有無（○有・無） ・担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ○有・無 ） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容医療安全への報告事例において適格な説明がなされているかその都度カルテにて確認している。説明において必須の内容が記載されていない場合は、その都度担当医に連絡し記載をするよう指導している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	○有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>◇全退院患者の診療録・診療諸記録について確認を行う〔量的監査〕と全診療科の診療録・診療諸記録について確認を行う〔質的監査〕にて診療録等の記載内容を確認している。記載内容の監査については、以下の項目を中心に「診療録・診療所記録監査マニュアル」に則って確認を行い、不備等があれば当該診療責任者と記載医へ通知を行っている。</p> <p>確認項目：退院サマリー、手術記録、インフォームド・コンセント、診療記録、書類(入院診療計画書・検査等承諾書・手術承諾書・麻酔承諾書等)</p> <p>◇主な指導(通知)内容：病名の訂正・追加、日付の誤り、略語の訂正、IC や書類の不備 等</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	○有・無
<p>・所属職員：専従(10)名、専任(1)名、兼任(9)名 うち医師：専従(2)名、専任(1)名、兼任(2)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任(1)名 うち看護師：専従(3)名、専任()名、兼任(1)名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>①医療安全管理委員会に係る事務</p> <p>②事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして管理者が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導</p> <p>③医療に係る安全管理に係る連絡調整</p> <p>④医療に係る安全の確保のための対策の推進</p> <p>⑤医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の確認</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ⇒医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有する。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。 ⇒当院副院長で病院長が指名している。常勤医で医師の資格を有している(消化器外科・診療部長)</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（15件）、及び許可件数（12件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（○有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（○有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◇従業者から申請された内容を確認し、評価委員会での審議が必要か否かを審議する。
 - ◇評価委員会にて審査された結果の妥当性を審議し、病院長へ報告する。
 - ◇定期的に部門会議を開催する。
 - ◇承認された技術が申請通りに行われているかを確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（○有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（○有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（○有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（○有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◇従業者から申請された内容を確認し、評価委員会での審議が必要か否かを審議する。
 - ◇適応外使用の報告について、報告書が未提出の場合には使用者へ報告書の提出を求め、提出され
 - た内容を確認・モニタリングをする。
 - ◇評価委員会にて審査された結果の妥当性を審議し、病院長へ報告する。
 - ◇定期的に部門会議を開催する。

◇承認された新規または未承認の医薬品について、申請通りに使用されているかを確認する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ○有・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ○有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：

2018 年度 死亡事例件数 564 件中、564 件報告

- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

⇒当院においては、モニタ君報告としてレベル3 b以上になったと思われる事象が報告されている

2018 年度 モニタ君報告（438件）

- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ①日本病院機能評価機構への報告をするかどうかの決定と報告
- ②日本医療安全調査報告への報告をするかどうかの原案作りと病院長への報告
- ③病院において重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析
- ④分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知
- ⑤改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し
- ⑥死亡事例・3 b以上事例による報告の実施状況の確認及び確認結果の管理者への報告
- ⑦上記の報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り

（○有（病院名：がん研有明病院／東京慈恵会医科大学附属病院）・無）

- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ

（○有（病院名：がん研有明病院／東京慈恵会医科大学附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

概ね良好に管理されているとの評価をいただいた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

(設置状況等)

窓口の名称 : 総合相談・がん相談支援センター

相談日・時間 : 月曜日から金曜日 9:00 から 17:00

土曜日 9:00 から 14:00

(祝日・第3土曜日・年末年始・創立記念日 6/10 は除く)

責任者氏名 : 廣井直樹(医師)

(活動状況等)

●患者等への明示方法

院内(各建物)の入口等に「総合相談」を表示している。

院内案内図「A0(総合相談)」場所(窓口)を案内している。

ポスターを各建物入口付近に掲示し案内している。

総合相談前にカウンターを設け積極的に対応を行っている。

リーフレット「総合相談のご案内」を配布用として各建物入口付近に置いている。

病院ホームページに掲載

●患者等が不利益を受けないよう適切な配慮の具体的方策

東邦大学医療センター大森病院総合相談部規約第14条(相談情報の秘密保護)の規定順守。

ポスター、リーフレット、ホームページに「個人情報を厳守し、不利益が生じないように配慮しています。」と記載してある。

●相談窓口以外の相談の受付方法

※電話相談

※投書箱(ご意見箱 病棟:19箇所 外来5箇所 合計24箇所)

※病院ホームページに届く、ご意見・ご質問に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者の研修受講状況

【研修時期】 平成30年9月17日～9月18日

【研修内容】 平成30年度 特定機能病院管理者研修

【主催者名】 財団法人日本医療機能評価機構

医療安全管理責任者の受講状況

【研修時期】 平成31年1月21日～1月22日

【研修内容】 平成30年度 特定機能病院管理者研修

【主催者名】 財団法人日本医療機能評価機構

医薬品安全管理責任者の受講状況

【研修時期】 平成31年2月6日

【研修内容】 平成30年度 特定機能病院管理者研修

【主催者名】 財団法人日本医療機能評価機構

医療機器安全管理責任者の受講状況

【研修時期】 平成30年8月11日

【研修内容】 医療機器安全基礎講習会

【主催者名】 公益財団法人医療機器センター

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

執行部担当表

職名	氏名	所属		担当	主催会議・委員会
病院長	ウリタ ヨシヒサ 瓜田 純久	総合診療内科	教授		01 病院運営審議会 07 医療の質統括会議 1 診療部委員会 13 業事委員会 14 新規診療材料購入委員会 18 先進医療委員会 22 執行部・課長会議 23 病院経営企画会議 35 臨床修練委員会 40 「からだのとしよしつ」運営委員会
副院長	モリタ トシスケ 盛田 俊介	臨床検査部	教授	●業務管理担当 ・地域連携 ・医師会関係 ・予算折衝 ・経営企画 ・国際医療支援 ・羽田地区 ・副医学部長	17 臨床検査検討委員会 20 地域医療支援センター運営委員会 47 広報委員会
副院長	イガラシ ヨシノリ 五十嵐 良典	消化器内科	教授	●診療・働き方・感染担当 ・感染管理 ・労働安全 ・経営企画 ・管理当直	04 院内選考委員会 013 院内感染対策委員会 26 医師業務軽減委員会 42 衛生委員会
副院長	フナハシ キミヒロ 船橋 公彦	消化器外科	教授	●安全管理・教育担当 ・医療安全 ・総合相談 ・倫理	08 安全管理対策委員会 09 医療安全管理委員会
副院長	タムラ キヨミ 田村 清美	看護部	部長	●看護担当 ・経営企画	4 看護師長会議 43 レクリエーション委員会
院長補佐	オチアイ リョウイチ 落合 亮一	麻酔科	教授	・中央手術部 ・周術期センター ・クリニカルパス ・移植医療支援室 ・経営企画	8 中央手術部運営委員会 12 臓器・組織移植委員会 15 クリニカルパス委員会 24 輸血療法委員会 44 周術期センター運営委員会
院長補佐	ワタナベ マサシ 渡邊 正志	医療安全管理部	教授(病院)	・医療安全	38 患者サービス・サポート委員会
院長補佐	マツウラ ヒロユキ 松裏 裕行	小児科	教授	・医療情報管理 ・保険	3 業務管理会議 48 保険委員会 49 DPC委員会
院長補佐	シマダ ナガト 島田 長人	教育企画管理部	臨床教授	・院内教育 ・研修医 ・保育園	33 院内教育委員会 34 院内研修運営委員会 36 研修管理委員会
院長補佐	スゴウ ノブオ 周郷 延雄	脳神経外科	教授	・検診センター ・放射線安全管理	2 医局長会議 21 検診センター運営委員会
院長補佐	タカハシ ヒロシ 高橋 寛	整形外科	教授	・外来運営 ・病棟運営 ・個人情報	6 外来運営委員会 7 病棟運営委員会 25 個人情報保護委員会
院長補佐	ミヤザキ タイト 宮崎 泰斗	感染管理部	助教	・感染管理	
事務部長	オオシマ マサル 大島 勝	事務部	部長	・事務	5 事務部課長会議 29 医療ガス安全管理委員会 31 院内廃棄物管理委員会 32 防災対策委員会 46 院内清掃環境委員会

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 東邦大学医学部附属病院長選任規程（改訂中） ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ○有・無 ） ・ 公表の方法 学内ポータルサイト 	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・○無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		○有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>診療部委員会</p> <p>病院の運営方針、中期計画、予算及び決算の審議</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 議事録等はイントラネットを用いて各部署で閲覧できる仕組みにしている</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（○有・無）</p> <p>・公表の方法 内部規程はイントラネットを用いて各部署で閲覧できる仕組みにしている</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・○無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙参照			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（○有・無）
- ・ 公表の方法
学内ポータルサイト
- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割別紙参照
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
院内研修として、将来構想若手勉強会
外部研修として、医事研究会、医療安全研修など

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況		○有・無			
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p> 委員会は、当該病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について、管理者等から報告を求め、または必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（○有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（○有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（○有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（○有・無）</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
梅田 勝	東京工科大学 医療保健学部 学部長（医師）	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・○無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 七郎	弁護士（東京弁護士会）		法律に関する識見を有する者	有・○無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
岩本 裕	NHK チーフ・プロデューサー		医療メディアに関する識見を有する者	有・○無	2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

高松 研	東邦大学 学長 (医師)		医療に関する識見を有する者	○有・無	
渡邊 善則	東邦大学 医学部 学部長 (医師)		医療に関する識見を有する者	○有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	有り
<ul style="list-style-type: none">・体制の整備状況及び活動内容 法人本部監査室 ・ 専門部署の設置の有無 (<input type="radio"/>有・無)・ 内部規程の整備の有無 (<input type="radio"/>有・無)・ 内部規程の公表の有無 (<input type="radio"/>有・無)・ 公表の方法 学内ポータルサイト	

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

有り			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会 病院の予算執行状況等、管理運営に関する重要事項について監督する内容 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ○有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ○有・無 ） ・ 公表の方法 学内ポータルサイト 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input type="radio"/>有・無 ）・ 通報件数（年3件）（平成30年度：3件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ <input type="radio"/>有・無 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input type="radio"/>有・無 ）・ 周知の方法 全体研修および各種会議にて報告

診療部委員会 委員会名簿

更新日：2019/6/12

診療部委員会

役職	氏名	規約構成（選出根拠）	所属
委員長	瓜田 純久	病院長	病院長
委員	盛田 俊介	副院長	副院長
委員	五十嵐 良典	副院長	副院長
委員	船橋 公彦	副院長	副院長
委員	田村 清美	副院長	副院長
委員	瓜田 純久	各科診療責任者	総合診療内科
委員	島田 長人	各科診療責任者	総合診療外科
委員	五十嵐 良典	各科診療責任者	消化器内科
委員	船橋 公彦	各科診療責任者	消化器外科
委員	池田 隆徳	各科診療責任者	循環器内科
委員	渡邊 善則	各科診療責任者	心臓血管外科
委員	岸 一馬	各科診療責任者	呼吸器内科
委員	伊豫田 明	各科診療責任者	呼吸器外科
委員	弘世 貴久	各科診療責任者	糖尿病・代謝・内分泌センター
委員	酒井 謙	各科診療責任者	腎センター
委員	狩野 修	各科診療責任者	脳神経内科
委員	周郷 延雄	各科診療責任者	脳神経外科
委員	南木 敏宏	各科診療責任者	膠原病科
委員	小原 明	各科診療責任者	小児科
委員	黒岩 実	各科診療責任者	小児外科
委員	松裏 裕行	各科診療責任者	小児循環器科
委員	名取 一彦	各科診療責任者	血液・腫瘍科
委員	緒方 秀昭	各科診療責任者	乳腺・内分泌外科
委員	端詰 勝敬	各科診療責任者	心療内科
委員	水野 雅文	各科診療責任者	精神神経科
委員	大西 清	各科診療責任者	形成外科
委員	高橋 寛	各科診療責任者	整形外科
委員	森田 峰人	各科診療責任者	産婦人科
委員	石河 晃	各科診療責任者	皮膚科
委員	関東 裕美	各科診療責任者	スキンヘルスセンター
委員	中島 耕一	各科診療責任者	泌尿器科
委員	堀 裕一	各科診療責任者	眼科
委員	和田 弘太	各科診療責任者	耳鼻咽喉科
委員	堀 正明	各科診療責任者	放射線科
委員	落合 亮一	各科診療責任者	麻酔科
委員	田中 耕一郎	各科診療責任者	東洋医学科
委員	与田 仁志	各科診療責任者	新生児科
委員	海老原 覚	各科診療責任者	リハビリテーション科
委員	関谷 秀樹	各科診療責任者	口腔外科
委員	渋谷 和俊	各科診療責任者	病理診断科
委員	鷺澤 尚宏	中央診療部門	栄養治療センター
委員	中村 陽一	中央診療部門	緩和ケアセンター
委員	名取 一彦	中央診療部門	化学療法センター

診療部委員会 委員会名簿

更新日：2019/6/12

診療部委員会

役職	氏名	規約構成（選出根拠）	所属
委員	本多 満	中央診療部門	救命救急センター
委員	島田 英昭	中央診療部門	がんセンター
委員	渡邊 善則	中央診療部門	大動脈センター
委員	永尾 光一	中央診療部門	リプロダクションセンター
委員	五十嵐 良典	中央診療部門	内視鏡部
委員	落合 亮一	中央診療部門	集中治療部
委員	池田 隆徳	中央診療部門	心血管インターベンション部
委員	池田 隆徳	中央診療部門	不整脈センター
委員	酒井 謙	中央診療部門	人工透析部
委員	島田 長人	中央診療部門	褥瘡ケアチーム
委員	落合 亮一	中央診療部門	呼吸ケアチーム
委員	松崎 淳人	中央診療部門	先端健康解析センター
委員	落合 亮一	中央診療部門	移植医療支援部
委員	片桐 由起子	中央診療部門	臨床遺伝診療部
委員	盛田 俊介	中央施設部門責任者	臨床検査部
委員	盛田 俊介	中央施設部門責任者	臨床生理機能検査部
委員	落合 亮一	中央施設部門責任者	中央手術部
委員	堀 正明	中央施設部門責任者	中央放射線部
委員	塩野 則次	中央施設部門責任者	臨床工学部
委員	塩野 則次	中央施設部門責任者	輸血部
委員	西澤 健司	中央施設部門責任者	薬剤部
委員	鷺澤 尚宏	中央施設部門責任者	栄養部
委員	渋谷 和俊	中央施設部門責任者	病院病理部
委員	高橋 寛	中央施設部門責任者	メディカルフォトセンター
委員	松裏 裕行	中央施設部門責任者	医療情報管理センター
委員	盛田 俊介	中央施設部門責任者	地域医療支援センター
委員	松裏 裕行	中央施設部門責任者	保険医療指導部
委員	吉澤 定子	中央施設部門責任者	治験・臨床研究管理部
委員	盛田 俊介	中央施設部門責任者	国際医療支援部
委員	大島 勝	事務部長	事務部長
委員	渡邊 正志	委員長指名	医療安全管理部
委員	宮崎 泰斗	委員長指名	感染管理部
委員	廣井 直樹	委員長指名	総合相談部
委員	高井 雄二郎	委員長指名	電子情報委員会
委員	原 規子	委員長指名	羽田空港クリニック
委員	並木 温	委員長指名	卒後臨床研修/生涯教育センター

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>◇ 日本医療機能評価機構 一般病院 2 機能種別版評価項目3rdG : Ver. 1.1 平成28年4月1日付で3度目の認定更新 (認定期間：平成28年3月20日～平成33年3月19日、初回認定日：平成18年3月20日)</p> <p>◇ ISO 15189「臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項」認定取得 (認定期間：平成29年3月16日～平成33年3月31日、初回認定日：平成29年3月16日)</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>◇ 公開講座を実施し、一般の方に対して、広く情報発信を行っている。(年間10回)</p> <p>◇ 地域連携学術セミナーを年1回開催し、当院の診療内容・方針を理解していただき、地域医療機関との医療連携促進に役立てている。</p> <p>◇ 広報誌「The Expert」を月に1回発行し、当院の診療内容について広く情報発信を行っている。</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>◇ 組織横断的なチームを形成することで、複数の診療科・多職種の職員が連携して、対応に当たっている。(呼吸ケア・褥瘡ケア・認知症ケアチーム、周術期センター 等)</p>	

(様式第 8)

東邦大森院 (総) 第 31-88 号
令和 1 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東邦
理事長 炭山

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修 (医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け) を実施するための予定措置

医療機器安全管理責任者 元木康裕 については、以下の研修を受講予定です。

2019 年度 特定機能病院管理者研修 [初回] 【第 1 回・東京】

(研修日: 2019 年 10 月 27 日 (日)・28 日 (月))

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員: 専従 (10) 名、専任 (1) 名、兼任 (9) 名
うち医師: 専従 (2) 名、専任 (1) 名、兼任 (2) 名
うち薬剤師: 専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (1) 名
うち看護師: 専従 (3) 名、専任 () 名、兼任 (1) 名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

上記 2 にて要件を満たしています。